

SOAI

相愛ファミリア

相愛大学 www.soai.ac.jp
〒559-0033 大阪市住之江区南港中4丁目4-1
相愛中学校・相愛高等学校 www.soai.ed.jp
〒541-0053 大阪市中央区本町4丁目1-23

2013
No. 24

familiar

お客さまの笑顔に
やりがいを感じます

インタビュー・社会で活躍する卒業生
北野美津子さん
相愛高等学校卒業生





お客さまの笑顔に やりがいを感じます



がはずみしました。採用が決まった時には、うれしさのあまり泣いてしまいました。

一人でも多くのJALファンを

入社して最初の2カ月間は、客室乗務員としての訓練を受けます。接客のほかにも、保安要員としての緊急時の動きなども重要です。6月に晴れて一人立ちし、現在は週に4日、東京・羽田と国内各地の空港を往復しています。フライトの際には毎回、飛行機の写真入りカードにお客さまへのメッセージを書き込み、機内のお手洗いに飾っています。学生時代に乘った飛行機でこのようなカードを目にしたのが印象に残っており、先輩と相談したうえで自主的に受け継いでいるのです。

社会人1年生はまだ覚えることも多く、週に2日ある休日も、語学を勉強したり、羽田空港でおみやげをリサーチしたりするなど、仕事のために時間を割くことが多いです。国内線で経験を積み、国際線で勤務することが現在の目標です。そして、「一人でも多くのJALファンを作りたい」。子どものころからの夢をかなえた今、北野さんは新しい夢を紡いでいます。

相愛での教え、経験が今に生きる

客室乗務員という職業には身だしなみも大切です。北野さんは「相愛での6年間、上品で皆さまに受け入れられる身だしなみをしっかり教えてもらったことが今、生きています」と話します。また、授業の一環で着付けや茶道を習ったことや、生徒会でボランティア活動をしたり、弁論大会に出たりした相愛でのさまざまな経験が仕事につながっているそうです。「国語の時間に習った美しい日本語。世界や日本の地理。学生のころは分からなかった勉強の大切さも痛感しています」と振り返り、「今できることに積極的に取り組むことが一番」と現役の学生・生徒にメッセージを送ります。(取材協力・日本航空株式会社 羽田客室乗務員部)



社会で活躍する卒業生

北野美津子 さん

日本航空客室乗務員

相愛中学校 2004年3月卒業
相愛高等学校 2007年3月卒業

北野美津子さんは子どものころからの夢をかなえ、客室乗務員として日本の空を飛んでいます。2013年4月に日本航空(JAL)に入社し、安全で快適な空の旅を提供できるよう働いています。「お客さまの笑顔を見た時に一番、やりがいを感じます」という北野さんに、今の思いを聞きました。

夢への努力は中学時代から

北野さんが客室乗務員を夢見るようになったきっかけは、小学校6年生の時の沖縄への家族旅行でした。その時に乗ったJALの客室

乗務員の方の笑顔に魅了され強く思うようになりました。「私もJALの客室乗務員になりたい!」

夢をかなえるための努力は相愛中学時代から始めました。客室乗務員に語学力は必須。個人レッスンで英語、フランス語の勉強を続け、ついにTOEIC770点のスコアをマーク。フランス語検定準2級も取得しました。

単に客室乗務員になりたいのではなく、JALの客室乗務員になりたいという思いを、入社試験の面接では訴えました。「JALが大好きだから、みんなが私のことはイコールJALだと思っています」と伝えたところ、その後の会話



相愛高中・宗教教育委員長
太田正見教諭

相愛学園で長年にわたって実践されてきた仏教を基盤とした教育。宗教教育の重要性は時代が変わっても普遍的なものです。現場ではどのような取り組みが行われ、それらにはどのような意義があるのでしょうか。学園の宗教教育を担う二人に、エピソードを交えながらあらためて語り合っていました。

〈宗教教育の現場から〉

生き抜くための フォームをつくる

対談

宗 徹
教 授
×
太田正見
教 諭

宗 宗教教育全般でいうと、私学だけでなく公立の学校も宗教教育を始めなければならないという差し迫った事情があります。例えば、急速に増加しつつあるイスラム教徒のように行動規範がはっきりした人々と共生していかなくてはならないからです。その中で私学は、明確な立脚点があります。学生の日常からいうと、宗教的な時間や場があるということは、宗教行事にしても宗教的な講義にしても、学びや遊びとは違う第三の時間・場所をもつということです。ふだんは誰しも、役に立つ・立たないという損得の見方の枠組みで懸命に生活しているけれど、それらをいったん「かっこ」に入れる時間と場所があるということです。学生たちは、ほとんどの場合はよくわからないままに行事に参加しています。「いったい何になるの?」という質問が出たら教員だからといって、的確に答えることはできません。でも、そういう時間・場所がある生活とない生活は、決定的に違うような気が

します。時間の流れ方が違う空間に身を置くということは、社会とは別の価値の扉が開くことで、それが生きる力に直結していると思います。世間の枠や価値観だけで生きるのは苦しいけれど、そこに別の価値の扉が開くことによって、生きる力を根っこで支えている。それが宗教系学校の特長です。

物事を多角的に見るトレーニング

宗 時間の流れ方が外の世界と全然違うことは大事で、頭でなく、意外と体に潜んでいる気がします。それは社会人になって苦労している卒業生たちから聞きます。「在学中はわけも



相愛大学・宗教部長
釈徹宗教授

からず歌っていたけれど、苦しい時に恩徳讃が出てくる」「この年になって、涙出るわ」と。「恩徳讃効果」です(笑)。恩徳讃はなかなかすごい。理屈では解明できないけれど、絶体絶命の厳しい時に、体に潜んでいる宗教性が浮かび上がってくる——それが生きる力を支えるということだと思います。

太田 私は中学と高校で教えていますが、中学に入学したての生徒たちは、入学式で周りが合掌をしたり仏教音楽が流れたりして、今までの生活との違いにまず愕然とするんです。新入生へのアンケートでもわかるのですが、宗教に対して、「怖い」とか「洗脳される」といったイメージを持って入ってきています。それが中学3年間と高校3年間、朝夕ずっと礼拝があり、特に日めくりの小冊子『日々の糧』の音読は、影響が大きいようです。相愛で中高6年間学んだ後に上京して一人暮らしをしている卒業生の一人は、今も毎日、『日々の糧』を読んで、その

言葉を支えているそうです。中学・高校で難しいことを教えてもちんぷんかんぷんですから、身近な「気づき」を大切にする機会を持つということだと思います。ちなみに『日々の糧』は最近、毎朝ツイッターにアップされています。

宗 宗教教育とはすなわち、「生きるフォームづくり」といったところでしょうか。宗教は物事を考える手順とか多角的に見るトレーニングをします。それが生きていくフォームになっていきます。それは頭の良い悪いは関係ないのです。スポーツ選手でもそうですが、自分のフォームを持っている人は、それがどんな個人的なフォームでも安定しています。野茂英雄投手がそうだったでしょう。自分のフォームを持っている人というのは、つまりいた時に立ち上がる力が違う。戻る場所があるから、自分の手順でもう一度考え直すことができるのです。私は、人生を生き抜くフォームをつくる教育をしたいと思っています。「自分の順序」を身につけると、ある時、いろんなものがつながりだす瞬間があります。それが大学教育のおもしろさですが、社会とは違う視点でフォームをつくっていく、そんな教育ができればいいなと思っています。

教え子たちに訪れる変化

太田 たえば「先生に怒られた」という一つの出来事があったとします。単に「自分は怒られた」と自己を否定するのではなく、自分はまずそう受け取ってしまったけれど、「あの時どうして怒られたのだろうか」「あの時も怒られなかったら、どうなっていたんだろう」と多方面から、いろんな受け止め方ができるようになります。宗教は期限がない分野なので、今すぐに結果が出るかどうかはわかりません。とうとう出ないかもしれません(笑)。

宗 出ないことのほうが多い。打率にして1割

ぐらい(笑)。教育カリキュラムにはそれぞれ受験などの期限が決まっていますが、宗教教育は別の時間が流れていますので、期限がありません。結果は50年後にポコッと出てくるかもしれません。それでも、宗教的に物事を見るトレーニングは必要です。そうでないと、宗教に対する免疫もないし、他人の信仰を尊重することもできない。そういう意味では、宗教はセンスの問題なのです。どう宗教と向き合うかというセンスを磨かなければならなくて、それは人間にとって大事なことです。どんな領域でも、自分でいったん考えることが大事なのに、宗教を学ぶ機会は意外とないのです。少なくとも宗教について一度でも考えたことがあるかないかでは全然違います。宗教的センスとは、ある種、受動性のようなもの。受け身の感性を成熟させないと、不全感ばかりが募ってしまいます。「人生、思い通りに行かないことばかり」と不全感に苦しむ時に、何かの「おかげ」とか「縁」とか「恵み」に感謝する体質が求められるのです。受動的な体質を育てるというのは、現代人のテーマだと思います。

太田 中学・高校では、週1回の授業で宗教の特長や歴史を勉強した後、親鸞聖人や浄土真宗について学びます。授業の終わりにノートを提出してもらおうのですが、自分で考えて、こういう受け止め方をすればいいんだという「気づき」が出てくるのがわかります。反応はいろいろですが、頑なだったのが柔らかくなってるのが見て取れます。中学1年生では何でもそのまま受け入れていたものが、2年生になると自分の意見を持つようになり、高校生になると、それらも含めて、前向きな感想が出るようになります。

宗 音楽学部と仏教の専攻の両方ある大学は、日本では相愛大学だけです。仏教音楽や雅楽も学ぶことができますし、相愛の音楽を使っ

た宗教儀式はクオリティーとオリジナリティーがとても高いものです。宗教儀式や儀礼の持つ力は、信仰や思想に先立つもので、大きいと思います。長年の蓄積がある相愛のポテンシャルは高く、頭でなく体で受けとめるというような教育の特長があります。

「気づき」の瞬間を大切に

宗 最近、もともとは教職員対象だった毎週木曜日の礼拝に来る学生が増えてきました。そして社会人学生も参加するようになりました。社会とのかかわりも重要ですから、相愛は開かれた大学として、社会との双方向性づくりに取り



組んでいます。また、小さくても教職員との距離が近い、目が行き届く大学です。小粒でも手取り足取り「生きるフォーム」を手づくりでつくっていく——そんな小さい大学の良さを發揮していきたいと思います。

太田 中高生は多感な時期なので、自分で解決できないことが多いのですが、そんな中で、心に何かを訴えられるものとの出遇いを大切にしていきたい。そういう時間と「気づき」を大切にしていきたいと思います。信者を増やそうとか押しつけとかではなく、これからの人生でいろんなことに出遇っていく一つの指針や判断材料になってくれればと思います。

TOPICS

(文：黒坂俊昭)



フライブルク音楽大学ノルテ学長(右)、ヘンケル教授(左)

1 相愛大学・フライブルク音楽大学 学術交流協定締結

2012年8月、ドイツのフライブルク音楽大学より招いたC.ヘンケル教授(本学客員教授)に、本学音楽学部がフライブルク音楽大学と学術交流協定を締結したい旨お伝えしたところ、帰国後フライブルク音楽大学R.ノルテ学長より協議を開始したいとの意向が届きました。それを受けて、10月中旬、児嶋教授とともに同大学へ出向き、ノルテ学長と詳細に検討を行った結果、交換留学生に関する細則も合わせて、締

結の合意が得られました。そして、今年5月双方の学長署名入りの文書の交換が整い、締結が完了いたしました。

昨年のノルテ学長との会談を受けて、今年度においてはフライブルク音楽大学から4名の客員教授(E.ル・サーージュ教授、G.ミシヨリ教授、B.ヴルフ教授、B.スローカー教授)をお迎えし、公開講座および特別レッスンを企画、現在実施しています。

一方、交換留学生に関しては、来年度の派遣実現に向けて努力を重ねているところです。

この学術交流協定には、演奏関連・音楽教



育関連・音楽学研究関連の活動、研究・演奏を目的とする教員の交流、高等教育を目的とする学生の交流、および学術研究・演奏・教育に関わる情報や資料の交換がその目的として挙げられており、次年度以降はこの趣旨に沿って両者の協力をますます促進したいと考えています。

2 臺中教育大学より 派遣留学生の 協定受け入れ

2013年5月、臺中教育大学の人文学院音楽学系と本学音楽学部との間で、派遣留学生受け入れなどについての協定を締結しました。その合意に基づき、2013年9月より臺中教育大学から3名の派遣留学生を受け入れています。

音楽学部は、2014年度以降、ヨーロッパの音楽大学(フライブルク音楽大学、ミラノ・ヴェルディ音楽院、シヨパン音楽大学など)は言う



臺中教育大学調印式

までもなく、この臺中教育大学とも演奏・教育・研究の各方面において協力関係を深めていき、国際交流に関してより活発な展開を目指しています。

姉妹校締結

相愛中学校高等学校
×
Pacific Buddhist Academy



安井大悟(相愛中学校・高等学校 校長)

アメリカ合衆国ハワイ州にある本願寺ミッションスクールと、Pacific Buddhist Academy (PBAと略)のそれぞれと、相愛中学校・高等学校は、2013年6月に姉妹校提携を結びました。

ミッションスクールは1949年に浄土真宗本願寺派ハワイ別院が設立した、4歳児から中学2年生までが学ぶ幼小中学校です。これまでここを卒業し

た生徒が、地元の公立やキリスト教系ミッションハイスクールへ進学していくことから、仏教系高校が待望久しかったところ、2003年に欧米圏最初の仏教系ハイスクール(中3~高3の4年制)が開学されました。ホノルル在住の日系ご門徒の子弟教育が、浄土真宗の宗教的情操教育を基礎に施されることになったもので、全米で注目をあびています。

今夏、この姉妹校提携に基づき国際交流プログラムがスタートし、中3~高3の希望生徒15名がPBAの生徒と一緒に授業に臨み、ハワイの一般家庭にホームステイする1週間を過ごしました。

現在計画中の国際交流プログラムの一部を紹介します。

本願寺ミッションスクール生の希望者は毎年本山参拝に来日しますので、相愛中高訪問や大阪でのホームステイおよびインターネットを介した交流などを実現したいですね。

またPBAは、龍谷総合学園にも加盟の宗門関係校であることから、すでに総合学園の数校との間に相互交流の実績を重ねています。たとえば前任校(龍谷大学附属平安中学校・高等学校)のように半年間の留学生相互交換、同時開講授業が実践例です。ハワイに半年ホームステイしながらPBAの授業を受け、ホノルルマラソンを完走したつわもの生徒会副会長(女子です)がいました。京都のお寺にホームステイし、慣れない冬の寒さに耐

えたPBA生も龍谷大学へ進学しました。

同時開講授業は、インターネットを利用して一つのテーマに沿った意見交換を、こちらからは英語で、ハワイからは日本語で討論する楽しい授業です。

もう一つ、PBAは建学の精神に、浄土真宗の教えに基づく平和構築を謳っています。平和学をともに学び、そして平和構築の担い手である若者を育てることは、龍谷総合学園加盟校共通の願いでもあります。

夢ではなく、一歩ずつ実現できるよう本校も努力したいと考えています。



キャリアサポーターによる 就職支援活動スタート



今年度より、3・4年生の就職関連行事の企画運営に携わり仲間同士で話し合いながらサポートしてもらい、2年生を中心としたキャリアサポーターの活動がスタートしました。

現在は、音楽学部2名・人文学部2名・子ども発達学科2名・発達栄養学科2名の合計8名がメンバーとして選出されています。

活動では、就職関連行事を学生目線で見てもらい、これからどうしていくかを話し合っ

たり、自分たちの名札を作りビジネスマナーを学んだり、さまざまな活動をしています。

先日はマナー講座ということで、学生支援センターのスタッフが中心となり、マナーとはどういうことかをはじめ、あいさつの仕方や名刺の渡し方など、社会に出て必ず役に立つことを学びました。最初はぎこちなかった学生たちも、だんだん慣れてきて笑顔で名刺を渡すこともできました。

この活動を通して自らのこれからのキャリア観を考えた、就職活動を進めるにあたって何をすべきかを、早い段階から気づけるような場になるようにしていきたいです。

キャリアサポーターからのコメント

●キャリアサポーターとして、先輩方をサポートするのはもちろんのこと、この活動を通じて自分自身、成長することができたいと思っています!

音楽学部 音楽学科 管弦打楽器 2年生 細見元希

●キャリアサポーターとしての活動を、自分自身が成長するきっかけに!!

音楽学部 音楽学科 管弦打楽器 2年生 木守里穂

●活動を通して就職の知識を広めつつ、「キャリア」とはどういうものなのかを考えていきたいです!

人文学部 日本文化学科 2年生 風間瞳

●サポーターとしての活動をきっかけに、自分自身も成長できるよう尽力します!

人文学部 日本文化学科 2年生 大菅さつき

●各学部学科のガイダンスをサポートし、相愛大学の学生全体が就職活動に興味・関心を持てるようなガイダンス作りをしていきたいです!

人間発達学部 子ども発達学科 2年生 大竹隼人

●先輩方がスムーズにガイダンスを受講できるよう、サポートしていきたいです!

人間発達学部 子ども発達学科 2年生 登智穂

●キャリアサポーターとして活動することで、ガイダンスの参加者と共に就職について視野を広めていきたいです!

人間発達学部 発達栄養学科 2年生 清水桜

●これからも、より良い活動を通して、キャリア力を身につけていきたいです!

人間発達学部 発達栄養学科 2年生 高橋優



古瀬まきを



白石尚美



松岡井菜



藤原盛企



川浪浩一

速報 2013年コンクール入賞報告&受賞コメント

●古瀬まきを(2006年卒業:声楽)

- 第9回藤沢オペラコンクール入選
- 平成25年度 奏楽堂日本歌曲コンクール 第24回歌唱部門 第1位 & 中田喜直賞 受賞
- 第22回ABC新人コンサート ソプラノ部門 最優秀音楽賞受賞
- 第25回宝塚ベガ音楽コンクール第3位

学生時代からこれまで、たくさんコンクールを受けてきました。オペラに出演することと同時に、コンクールを受け続けてきたのは、入賞などの結果ではなく、コンクールを受けることが自分が自分を成長させてくれると信じているからです。

実は、今年賞をいただいたコンクールも過去に全て予選落ちしています。予選落ちの度に学んだことや感じたことの積み重ねが、いつのまにか今回の結果へとつながってくれたのだと思っています。そして何より、これまで育ててくださった先生方や、支えてくださった方々のおかげだと、感謝の気持ちでいっぱいです。今後は、こうして賞をいただいた責任をもって一層努力して参りたいと思います。

来年は、2月下旬より文化庁海外研修制度研修員としてドイツで一年間研修させていただくこととなりました。皆様に喜んでいただける音楽家となれますよう、1年間大切に過ごし、成長していきたいです。

●白石尚美(2013年卒業:サクソフォン)

- 第50回なにわ芸術祭 新人賞受賞

このコンクールへの出場が卒業後すぐだったということもあり、大学で4年間積み重ねてきた

ことを評価していただけたという喜びを感じましたし、今後への励みにもなりました。

楽器演奏、音楽というのは追求すればするほど深くゴールがなく、だからこそ難しくもあり、魅力的でもあります。まだまだ技術を高めたいいけないし、もっと自由に表現できるようになりたいと日々感じています。

ありきたりな言葉かもしれませんが、聴く人の「心に届く」音楽を発信できるよう、これからも精進していきたいと思っています。

●松岡井菜(2年生:ヴァイオリン)

- 第17回松方ホール音楽賞 音楽賞受賞

音楽賞の受賞が決まった時は本当にびっくりしました。受賞連絡の紙に書かれてある「松岡井菜」という名前が他人のもののように感じてしまいました。

来年2月の授賞式で、再び松方ホールで弾かせてもらうことは、とても名誉なことですし、胸が躍っています。

これからは、いただいた賞の名に恥じないよう、努力し続け、この道をもっと極めていきたいと思っています。

聴いていただくお客様には、そのわずかな時間が少しでも楽しいひとときとなるように、そしてもしその方が、それまで知らない曲であったとしても好きになってもらえるような演奏を目指して、これからも頑張ります。

●藤原盛企(2007年卒業:ギター)

- 第5回J.S.バッハ国際ギターコンクール(ドイツ) 第2位

在学中から現在まで国内・国際問わず多数のコンクールに挑戦してきました。今回ドイツ

の国際コンクールで第2位を頂いた事は大変光栄な事と思います。今後はより多くのコンサートに出演したり、できる限り欧州の国際コンクールにも挑戦を続けたいと思っています。同時に海外の講習会などにも参加し続けヨーロッパの音楽を学びながら、より深い表現を自分なりに追求したいと考えています。

今まで支えてくださった家族、先生方、友人に感謝を忘れず、そして何より一人ひとりのお客様に喜びを与えられるよう更に誠実に深く学び、日々精進したいと思います。

●川浪浩一(2006年卒業:チューバ)

- 第30回日本管打楽器コンクール チューバ部門 第2位

私は、8月の後半に東京で行われました、日本管打楽器コンクールに参加し、2位という賞をいただく事ができました。学生時代から挑戦してきたコンクールで賞をいただいたことは素直にうれしかったのですが、同時に、あと少しで優勝できたのになあという悔しさも残るコンクールでした。

学生時代からコンクールやマスタークラスなど、機会があればなるべく自分から参加するようにしていましたが、今年このコンクールを受けて一番の収穫は、やはり高いレベルの中に身を置くと、自分自身がすごく成長できると再確認できた事です。

今回賞をいただきましたが、これに満足する事なく、これからも常に上を目指して頑張りたいと思っています!



60th Anniversary SOAI Orchestra

第60回相愛オーケストラ定期演奏会を終えて

♪ 2013年10月11日18時30分

ザ・シンフォニーホールにて相愛オーケストラの定期演奏会が開演されました。

♪ おもちゃの交響曲

1曲目は、相愛ジュニアオーケストラのアンサンブルクラスを中心とした、レオポルド・モーツァルト作曲・おもちゃの交響曲。かわい将来の相愛オケの担い手たちが、お客様の温かい拍手に迎えられて入場。席に着くと、指揮者・円光寺雅彦客員教授(音楽学部)の登場! 場内のほほえましい空気に包まれ、演奏が始まりました。各楽章、生き生きとした演奏で、聴衆から大喝采を受けました。

♪ 交響詩「レ・プレリュード」

2曲目は、相愛ジュニアオーケストラによる、リスト作曲、交響詩「レ・プレリュード」です。一段と華やいだ雰囲気、小学生高学年と中学生を中心とした弦楽器と、相愛大学の管楽器や中低弦の学生との編成で、堂々とし

学園総力の結集



た響きと表現力のある好演でした。

♪ 交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

休憩後は、相愛シンフォニーオーケストラの通称「第9」の開演です。

指揮：円光寺雅彦/ソプラノ：泉 貴子
メゾソプラノ：阪上真知子/テノール：松原 友
バリトン：片桐 直樹

今回は第60回と記念すべき公演でもあり、学園総力で、取り組める曲をと思案していました。そんな折、声楽の佐藤康子教授(音楽学部)からの「ぜひ第9を」との提案を受け、「学園総力の結集!」を合言葉に、4月から準備してきました。相愛大学の声楽専攻科、管弦打楽器専攻科、教職員などを中心に約200名で編成した「相愛大学第9特別合唱団」の大編成とオーケストラ約100名の豪華なステージとなりました。1楽章、2楽章、3楽章と進み、いよいよ4楽章では合唱とオーケストラの素晴らしい響きに、ホールは歓喜に包まれました。

今回指導と指揮をお願いした円光寺先生はもとより、オーケストラを指導していただいた先生方に深く感謝いたします。

相愛イズム、脈々と

大盛況となった60回目の記念定期演奏会。オーケストラ委員長を務める音楽部の中谷満教授は「4月から練習を重ねてきたのですが、だんだん息が合ってきて、本番は本当に素晴らしいコンサートになりました」と振り返ります。

相愛オーケストラの歴史は、相愛学園の音楽専門教育のあゆみと切っても切れない関係にあります。相愛の音楽教育は、1906年に開設された相愛女子音楽学校に始まり、1937年には相愛女子専門学校音楽科が設立されますが、空襲で本町校舎は焼失してしまいました。終戦後の1953年、女専は相愛女子短期大学音楽科として発足、相愛高校音楽科も開設されました。1955年には音楽学科長に「赤とんぼ」「この道」「ベチカ」などを作曲した山田耕作氏を迎え、早期教育に焦点を当てた「子供の音楽教室」もスタートしました。この音楽教室が母体となり、翌1956年、相愛オーケストラは創設されました。山田耕作氏のほか、ドイツに留学し、サイトウキネンオーケストラで知られる名教育者、斎藤秀雄氏の薫陶を受け、現在もその独自の指導法を継承しています。「相愛オーケストラの伝統が脈々と受け継がれてきたのは、斎藤先生が蒔いてくださった種を相愛イズムとして大事に育ててきたからです」と中谷教授は語ります。

大きく4つの部門から構成され、相愛大学管弦打楽器専攻科生および相愛高校音楽科生による大編成の管弦楽「相愛シンフォニーオーケストラ」、相愛大学音楽学部弦楽器専攻科生による「相愛ストリングオーケストラ」、相愛音楽教室弦楽科生徒および研究生を主に相愛高校・大学生を加えた管弦楽「相愛ジュニアオーケス

トラ」、そして相愛大学音楽学部管打専攻生による「相愛ウインドオーケストラ」と、総勢300名を擁するまでに発展してきました。学生オーケストラとしては、規模、実力ともに国内トップクラスといえるでしょう。

毎年秋にはザ・シンフォニーホール、また春にいずみホールで定期演奏会を開催しています。指揮者陣にはイギリスでエリザベス女王より大英勲章を授けられた尾高忠明客員教授(音楽学部)をはじめ、円光寺雅彦、梅田俊明、小林恵子、酒井陸雄の諸氏が名を連ねています。

これまで、関西圏はもちろん沖縄や中国、四国、東海、北陸に至る各地で演奏旅行を行ったほか、海外へも「相愛ジュニアオーケストラヨーロッパ演奏旅行」を3度にわたり行い、訪れたロシア、ポーランド、ドイツ、イタリア、いずれの地においても絶賛されました。2008年には相愛学園創立120周年を記念し「相愛オーケストラヨーロッパ公演」をデュッセルドルフ、ワルシャワ、ミラノ各都市にて、また2010年には中国・瀋陽にて公演を行いました。そして2014年8月には「西日本ツアー」と銘打った演奏旅行で、久留



オーケストラ委員長の中谷満教授(音楽学部)

米市、広島市、岡山市の3カ所を総勢100名で巡る予定で、メンバーたちは大いに張り切っています。

「一人でも多くの学生に、プロの演奏家になってほしい」と中谷教授。それと同時に「プロでなくても、音楽を愛好する人に育ってほしい。音楽は人間形成のための大きな道具でもあります。音楽を通して、社会とかかわってほしいですね」と若い世代に期待を寄せます。



堤 剛客員教授 文化功労者に!

去る10月25日、堤剛客員教授(音楽学部:チェロ)が「文化功労者」の栄誉を受けられました。先生は長年にわたり、洋楽において演奏・教育両面からわが国の文化振興に多大な貢献をされ、この度の決定に至りました。2009年にも紫綬褒章を受章され、日本を代表する中心的な音楽家として現在も各方面で活躍されています。

音楽 マネジメント学科

第22回経営学合同ゼミ合宿に参加 相愛生の企画力が有名大学を圧倒! 見事1位を獲得



2013年9月3~5日の3日間、音楽学部音楽マネジメント学科の学生たちが、「経営学合同ゼミ合宿」に参加しました。

この「経営学合同ゼミ合宿」は、北海道から九州まで、経営学の研究をしている学生が集まり自主合同研究会を行うというもので、1989年から開催され、今年で22回目を数えます。

20年前には学生として参加していた方が今は教授として参加するなど、歴史を感じさせる合同ゼミ合宿です。今年度は参加校としてだけでなく、幹事校を務めることになりました。

1年前から準備をはじめ、4月以降は1回生も参加し、3日間の企画と運営、そしてゼミ班はテーマ

に沿った研究発表準備と、休日も返上しての取り組みとなりました。

開催場所は、地域の方々のご協力のもと、シティプラザ大阪(中央区)に決定。もちろん、相愛大学が幹事ですから、音楽は外せません。どこでどんな音楽を取り入れると喜ばれるか、参加学生=お客様に対する「おもてなし」をいかにすべきかを日々考えながら3日間のプログラムを組み、それを実現できるように綿密な打ち合わせを繰り返してきました。

そして、当日。

参加校は、大分大学、滋賀大学、法政大学、中央大学、成城大学、甲南大学、北海学園大学、そして

相愛大学の全8校。合計10ゼミ、総勢約200名の大学生が集まりました。

1日目は、ウェルカムパーティーと題した懇親の場。お互いのことを全く知らない全国の学生たちが、ネット上だけでない、リアルな友人になるために、ゲームや音楽など本学ならではのさまざまな「おもてなし」を行いました。

2日目は、いよいよプレゼン大会。今年のテーマは、「文化と地域を掛け合わせたビジネスプラン」。このテーマに沿ったビジネスプランを各校は約半年間かけて研究します。その集大成としてのプレゼンテーション(各15分間)を審査するのは、会場にいる全員。ゲスト審査員として、大阪商工会議



所、りそな銀行など地域の企業の方々にもご参加いただきました。

その結果…

10ゼミ中、見事1位をとったのは、なんと相愛大学。3日間の企画運営を成功させただけでなく、研究発表成果も評価されました。

相愛で交流を深める 日本人と留学生



人文学科1年生

てい 安藤 ぶん 小出 ことみ 眞人
りん 林 芝宏 夢
ろ ろ 呂 夢
しこう 小出 ことみ 眞人
たけした まこと

今年度より開設された人文学科にも留学生が在籍しています。そこで日頃の交流を通して、お互い思っていることを語ってもらいました。

Q1 留学生の皆さんにお聞きします。本学へ留学をしようと思った目的やきっかけを教えてください。

テイ: 国際コミュニケーションについてもっと勉強したいという夢があり、留学という道を選びました。日本語学校の先生に紹介されて、相愛に入学することを決めました。また、人文学に興味があり、特に心理や日本文化の分野を勉強しています。

ロ: 当時、大阪の大学に通いたいという思いがあり、日本語学校の先生の後押しもあって相愛に決めました。大学では国際コミュニケーションを深く学び、将来的にはアメリカの大学に留学し、ファッションの勉強をしたいと考えています。

Q2 一緒に活動していること、授業などについて、またそれを通じた感想などをお聞かせください。

竹下: 一緒に取り組んでいるのは、「多文化社会」という授業です。自国の文化について調査し、それをプレゼンテーション形式で紹介し、そこで、不思議に感じたり、疑問に思ったことを質問し合いながら、お互いの国を理解するというものです。

テイ: 例えば、中国では、お正月やお祝い事のときには「福」と書かれたオーナメント(飾り)を逆さにして飾り付けます。なぜ逆さにするかと言うと、中国語では「逆」という字の発音が、来るという意味の「到」という字の発音と同じだからです。ですから「福が逆さ(福が来る)」と解釈することなどを紹介しました。



安藤: 普段一緒に過ごしていて感じたのですが、私たちと比べて留学生はすごく積極的に発言します。しっかり自分の意見を持っているのだなと、驚き感心しました。でもたまに、もう

ちょっと控えめにしたほうがいいかなと思うこともあります(笑)。

小出: 確かにすごくプレゼンテーションも上手ですし、よく研究していて尊敬しますね。

テイ: 確かに私たちの文化には、控えめめという習慣はあまりなく、思っていることを率直に言葉にします(笑)。

小出: 授業だけでなくさまざまな場で、留学生が発言する時や質問を受けた時は必ず起立することに驚きました。

テイ: え、立って発言するのって当然じゃないの?(笑)。

小出: こうやって日本語で会話できることが一緒に過ごしていて純粋にすごいと思います。私たちももっと頑張らないといけないと感じますし、幅広い視野とコミュニケーション能力を持たなければという思いがわいてきます。

竹下: 私は高校入学前に、海外に留学した経験があり、留学生と接することに比較的抵抗はなく、一緒に過ごせる時間を楽しんでいます。

安藤: 私は生まれが長野県ですが、

大阪で一人暮らしをしながら相愛に通うなかで、関西弁を生で聞いたとき、正直ちょっと怖いなと感じたことがあります。みんな(留学生)は、初めて聞いた時はどうだった?

テイ: 来日して、初めて聞いた言葉が関西弁だったので、比較するものがなく、違和感みたいなものもなかったですね。「アホか」「なんでやねん」というツツコミ方には驚きました(笑)。でも、もう慣れましたよ。

Q3 最後に、皆さんが今後一緒に活動したいことなどがあればお聞かせください。

テイ: 中国には大学祭のようなものがないので相愛で参加した大学祭はとても楽しかったです。今年は留学生だけの企画で出店したのですが、来年は、日本人の友達と出店したり、色んなイベントを企画したいですね。

安藤: 現在バスケットボール部に所属していますので、スポーツを通してできる交流の輪をもっと広げていきたいなと思います。



人文学部創設30周年記念シンポジウム

大阪のインテリジェンス



人文学部創設30周年を記念するシンポジウムが、釈徹宗教授のコーディネートのもと、人文学部同窓会の後援を得て7月27日にホテルモントレグラスミア大阪にて開催されました。テーマは昨年と同じく「大阪のインテリジェンス」ですが、今回は浪曲に加えて落語を取り上げ、より多角的に大阪の知性を探究しようというものでした。

オープニングを飾ってくれたのは、前回好評だった浪曲師の春野恵子さん。三味線との息もぴったりで、「樽屋おせん」を熱演してくれました。この1年間で知名度がさらにアップ。浪曲の真髄を堪能させてくれました。

続いての登場は、落語家の桂雀々さん。桂枝雀師匠の思い出話も絡め、「代書」を

独特の語り口で好演されました。雀々さんの語りは、破天荒な、それでいて無類に面白い。久しぶりに腹を抱えて笑わせていただきました。爆笑王の枝雀師匠の遺伝子を感じずにはおられません。

後半は、演者のお二人を囲んでのトークセッション。「大阪のおばちゃん」でお馴染みの前垣和義特任教授(人文学部)も加わり、釈教授の司会のもと、にぎやかに大阪論が展開されました。

皆さん大阪を愛すればこそ、うんちくを傾けての丁寧なやりとりは、まさにインテリジェンスの煌めきそのもの。とても楽しいひとときを過ごすことができました。

名越康文 客員教授

「心の技法」 集中講義



8月29、30日の2日間にわたって名越康文客員教授(人文学部)による集中講義「心の技法」特講が、南港学舎で行われました。名越先生は、この4月から開講科目「人間関係論」を担当されていますが、これはその拡大版というべきもの。進行役の釈教授を巻き込んだ名越ワールドは、連日、見どころ、聞きどころが満載でした。

1日目は、先生の生い立ちや精神科医になるまでの経緯などを中心にお話していただきました。なかでも印象深かったのは、ご両親との思い出話。子どもは成長する過程で反抗期を迎え、親を乗り越えようとするが、先生も例外ではなく、人格が形成さ

れる青少年期には、自らを見いだすための試行錯誤を繰り返した経験など、赤裸々に語られました。

2日目は、「体論」が展開されました。先生によれば、人はその体形や骨格によって気質や性格が決まってくるというもので、それは10種あるとのこと。講義では、1種から始めて10種に至るまで解説されましたが、医師としての経験があるだけに説得力がありました。また、持ち前のサービス精神にあふれたトークで、時間はあっという間に過ぎていきました。

名越先生は、仏教にも強い関心を持っておられますが、こちらの方は次回のお楽しみ。

龍大生&京女大生とつながる交流会



11月3日に奈良の田原本町にある「浄照寺」の集いの会に参加しました。まず本学の釈教授による法話(浄土真宗の伝承)と藤野宗城先生による節談説教が行われました。次に龍谷大学と京都女子大学の宗教教育部の学生たちによるレクリエーションに参加。浄照寺では毎週土曜日に子ども会が開催され、両大学の学生たちが先生として活躍しています。今回は「1こでも100このりんご」、「葉っぱのフレディ」を口演されました。

集いの会終了後、相愛大学の学生も交えた3大学による意見交換会が開催され、お互いにイベントを企画・運営していく立場で何が大切か、意識できました。いずれは3大学共同で何かイベントができればと考えています。

應典院&仏教文化学科共催イベント



今年で3回目となる應典院と仏教文化学科の共催イベントが10月9日に行われ、「いのちとカタリ」をテーマに信州にある長谷寺(浄土真宗本願寺派)の岡澤恭子さん(坊守)による涅槃図の絵解きの実演、講談師の旭堂南海先生と僧侶の大河内大博さん(浄土宗)、釈教授による熱いトークセッションが繰り広げられました。長谷寺は通称「紅葉寺」と呼ばれていることから、今回は学生のアイデアで参加者の方に紅葉の葉っぱをかたどった紙に感想を書いていただき、木の枝に貼り付けました。紅葉の木と葉っぱは應典院スタッフと学生、先生と4時間かけて制作! 学生たちの一歩成長した姿を見ることができました。

古きをたずね新しきを知る 学外研修



教員との親睦を兼ねた学外研修を行いました。文化交流学科は、大阪城、大阪歴史博物館を訪れました。学生はあらためて日本文化の素晴らしさに気づき、留学生は新たな文化にふれ、その違いと魅力に感動を隠せない様子でした。



また、日本文化学科では志賀直哉旧居、三月堂、東大寺と歴史ある施設を巡り、その時々には繰り広げられる先生方の知識溢れる解説に、学生たちは輝いた目を注いでいました。

出版やメディアで活躍する教授陣

釈徹宗教授

- 【テレビ】
 - 「スーパーニュース・アンカー」関西テレビ
 - 「プライムニュース」BSフジ
 - 「落語でブッダ」Eテレ など
- 【ラジオ】
 - 「本多隆明の京のあったか円かじり」KBS京都
 - 「玉岡かおるの巡拝の旅」ラジオ関西
 - 「8時だヨ! 神さま仏さま」サイマルラジオ など
- 【新聞・雑誌の連載】
 - 「メディア時評」毎日新聞
 - 「初歩からの仏教」『週刊 仏教を歩く』朝日新聞出版
 - 「今ここを生きる智慧」『Fole』みずほ総合研究所

前垣和義教授

- 【テレビ】
 - フジテレビ
 - 5月27日…「アゲるテレビ」大阪のおばちゃん
 - テレビ大阪
 - 6月8日…「たかじんNOマネー」行列マーケティングに大阪の人はひっかからない
- 読売放送
 - 10月4日…「かんさい 情報ネットten」からくりコーナー 大阪と船の関係について
 - 11月1日…「かんさい 情報ネットten」からくりコーナー 道頓堀の今昔 芝居の街 看板



人間発達学部
発達栄養学科

イズミヤで商品化



「愛情お弁当コンテスト」で**最優秀賞!**

愛情たっぷり栄養バランスの優れたお弁当を募集する「第12回愛情お弁当コンテスト」(主催:イズミヤ様と大阪府など)で、全国352件の応募作品の中から、佐野仁美さん(発達栄養学科1年生)が考案したお弁当が最優秀賞に選ばれました。作品タイトルは「まごわやさしい弁当」で、「ま」は豆類、「ご」はごまなどの種実類、「わ」はわかめなど海藻類、「や」は野菜、「さ」は魚、「し」はしいたけなどのきのこ類、「い」はいも類で、「いろいろな食材を使った栄養バランスを考えたお弁当です」と佐野さん。

なお、「まごわやさしい弁当」は9月30日から2週間近畿地区のイズミヤ・カナート全店で販売されました。

発達栄養学科学生が考案!

注目レシピ

ライフ×相愛大学×食品企業4社による
「鍋」プロジェクト

スーパーマーケット「ライフ」と相愛大学、食品企業4社(カゴメ、味の素、ミツカン、キッコーマン)による産学連携「鍋」プロジェクトがスタート。10月から1月までの4回、情報誌「鍋かわら版」に学生が考案した注目レシピや鍋情報が掲載されています。

その第1弾の10月号は『ライフ×相愛大学×KAGOME』による「美容鍋に



第1弾「ライフ×相愛大学×KAGOME」



第2弾「ライフ×相愛大学×AJINOMOTO」

挑戦!」、4回生5人が考案した注目レシピは「食べてうるん♪ベジ鍋」「簡単&ほっこりトマトみそ鍋」「わいわい♥トマトフィユ鍋」の3メニューで、いずれも野菜たっぷりヘルシー鍋です。

第2弾の11月号は『ライフ×相愛大学×AJINOMOTO』による「時短鍋を紹介」、4回生4人が考案した「発見!しょうゆなアボカド鍋」「簡単!KAN湯!白湯鍋!」「うま塩バターHOT☆HOT鍋」の3メニュー。忙しい毎日でもより簡単に鍋を楽しむことができる時短ワザを紹介しています。なお、12月号はミツカン、1月号はキッコーマンと連携したお鍋が登場します。

レシピを紹介している「鍋かわら版」は、ライフの関西、関東全店舗(235店)に設置されている鍋ボードにあります。ぜひご覧ください。

実践教育
NO.1

めざせ!
「食育のできる管理栄養士」



青空の下、
めいっぱい食育をしました!!
御堂筋kappo 2013

今年は、これまでの秋の実施ではなく、「みんなでkappo!御堂筋フェスタ2013」ということで、5月13日、御堂筋に3回生による体験型ブースを出展しました。〈朝ごはんコーナー〉〈野菜コーナー〉〈おやつコーナー〉の3つのコーナーを設け、子どもたちを対象に学生たちが作成した手作りの媒体が大活躍。来場者は約1,100人(うち子ども515人)で、最後尾のプラカードの出番もあったほどです。青空の下、大にぎわいの一日となりました。



好評!!

土曜公開講座
「メタボダイエット教室」

「メタボダイエット教室」は、「健康と食事について学ぼう」をテーマに、食と運動の両面からダイエットサポートをめざして2006年から地域の方を対象に開講しています。

今年度は、41名(定員30名)の一般受講生が、発達栄養学科4回生(10名)と教員のサポートにより毎回楽しくダイエットに取り組んでおられ、大変好評を得ています。学生たちは、地域の方々に育てていただきながら、栄養学の専門性や実践力を身につけています。



主体的学びを重視した
先生力育成をめざす **新教育改革** phase 1

人間発達学部
子ども発達学科

子ども発達学科では、専門職(保育職・教職)育成支援をさらに充実させ、先生力を育てるための教育体系の構築をめざし、「つながり合い」「学び合い」をキーワードに主体的学修への工夫(授業実践の工夫や学習環境の開発等)に取り組んでいます。同時に、地域に本学の人的資源や物的資源を開放することによって社会貢献もめざしています。学生たちの主体的学修活動のようすを一部ご紹介します。



相愛ビオトープとつどいの里山



相愛ビオトープとつどいの里山(田んぼ&ため池・遊びの里山・山の畑ゾーンがあります)では、保育者・教員をめぐす学生が、大学キャンパス内において自然(動植物等)と日常的にふれあい、自然に対する感性と自然体験活動・飼育栽培に関する資質能力を育成する(自然を「みる目」を養う)ことを目的に、さまざまな実践を行っています。

「田んぼ&ため池ゾーン」では、3回生と地域の園児たちが一緒に田植え体験をしました(写真①)。

その他にも、都会ではなかなか体験できないめだかすくい(写真②)やどろ遊び、どろ団子作りも実践しました。初めての体験に戸惑う学生もいましたが園児たちの前では頼もしい姿をみせていました。

園児たちは自分たちで植えた苗の生育のようすが気になって、何度もキャンパスまで見に来ていました。そんな園児たちの稲刈り体験。刈った稲を得意そうに見せ合いっこしていました。みんなで収穫を喜びました(写真③)。

みつつん先生と日本の踊り
ODORO講座

就業力育成支援プログラムの一つとして、本年度は新たに「みつつん先生と日本の踊りODORO講座」を実施しました。みつつん先生は、日本各地で愛されている伝統的な踊りを現代風にアレンジ指導されています。200種類のレパートリーを持つ現役保育士です。1~3回生が学年を越えてつながり合い、学び合いました(写真④)。

木薫(もっくん):
木のぬくもりを感じて

さらに、今年も就職を控えた4回生が園児たちと共に本物の木に触れ、木のぬくもりや木の薫りを体験する活動をしました。園児たちの木へのかわり方、間伐材を使った遊びの工夫、森林や林業などについても学びました(写真⑤)。



大学祭で子ども発達学科
コーナーを開設

さまざまな取り組みとその成果を活かして、今年の大学祭では子ども発達学科コーナーを開設しました(写真⑥)。「保育・教育実践学習」で作成したかべ新聞や、他の授業で制作した教材や学修活動の写真などの展示コーナーを設けました。さらに、親子連れが手軽に遊び体験ができるよう、折り紙など簡単な材料を使った「あそびコーナー」も設けました(写真⑦)。大学祭に訪れた親子連れに大好評でした。



“好き”だから頑張れる、ワタシ専用時間割 専攻選択コース新設

相愛高等学校で、2014年4月から「普通科専攻選択コース」がスタートします。普通科では2年次から、7つの専攻に分かれ、専攻選択科目の中から、興味のある科目、受験に必要な科目を選び、自分だけの時間割で学ぶことができます。夢や目的に合わせて学べるコースについて、学校改革プロジェクトチームの竹中泰子先生とローゼン・セーラ・梨沙先生にお話を伺いました。



●どんなコースですか？

一人ひとりの個性を尊重することを願って誕生したコースです。「来年度の時間割」という近い未来を手がかりに、将来の夢や希望をイメージし

ながら学べるコースを、という思いから設置しました。また、進級時に専攻を変更できることも他校にはない特徴の一つです。

●どのような専攻があるのですか？

一般的な大学進学をめざす「文系」「文理系」「理系」のほか、実践的知識習得が求められる大学への進学を希望する人のための「幼児教育」「栄養」「看護受験」、そして幅広い教養を身につけつつ進路を熟考する「教養マナー」の7つの専攻を用意しています。

●各専攻ではどのような授業が開講されるのですか？

幼児教育専攻では、体験的な授業も取り入れ、特にピアノレッスンをはじめとする音楽教育に力を入れる予定です。栄養専攻では、調理に関する実技指導や理系科目の充実をはかります。また、着付け、バレエ、美しい文字を書くためのペン習字、英会話、秘書検定などの新授業も開講します。

また、一般に大学進学といっても、そのための勉強や準備はさまざまです。そこで、このコースでは、必要な科目を集中的に学べるカリキュラムを用意しています。例えば、数Ⅲは選択科目となりますので、高2以上は履修しないということもあるでしょう。

●その他に変更点はありますか？

“ブラッシュアップEnglish”という科目を新設します。高校において英語は中心となる教科ですが、中学で実力差がついてしまっていることもあります。この科目によって、苦手意識のある人にはもう一度英語の楽しさを、また得意な人にはより実践的なスキルを身につけてもらえるでしょう。入学時より英語が好きになり、卒業時にコミュニケーション力の向上を実感してほしいと願っています。



50年に一度の大法要 御堂筋をパレード

11月16日、本願寺津村別院 親鸞聖人750回大遠忌法要に伴って行われた、御堂筋のパレードに吹奏楽部と高校1年生、中学1年生が参加しました。パレードに向けて、吹奏楽部は行

進しながらの演奏を、高校1年生と中学1年生は、時代行列の8つの役(天女、雑賀衆、女武者など)に分かれて、所作を繰り返し練習しました。前日には保護者の方々のご協力をいただき、着付け練習を行いこの日を迎えました。

通常の時刻よりはるかに早い時間に集合して、着付けに取りかかりました。それぞれの衣装を身にまとった生徒たちがわいわいと見せ合い、喜ぶ姿が印象的で、パレード直前の最終練習は、一段とまとまりがあったように感じました。スタート地

点である南御堂へ移動した後、スタートまでの待ち時間では、練習で何度も聞いた太鼓や笛の音が流れると所作の手の動きをみせる生徒もいて、緊張を隠せない様子でした。時代行列が始まり御堂筋にでると、パレードの様子を写真に収める大勢の観客に驚いて笑顔を忘れかけていましたが、段々と柔らかい表情になり、堂々とした姿で行進していました。北御堂に到着後、記念撮影をして、無事解散となりました。

50年に一度という大きな法要に際した今回の行事に参加できたのは、本願寺津村別院の方々をはじめ、衣装を提供してくださった井筒企画、所作をご指導くださった飛鳥流の先生方、着付けを手伝ってくださった保護者など多くの方々のご協力のおかげです。



魅力ある 大人の女性への第二歩



着物で歩く御堂筋 高3着付け体験

高校3年生の「着付け体験」が11月7日に実施されました。どんよりした秋空の御堂筋、本町界隈が色あてやかな着物で歩く生徒たちによって華やかなものになりました。在校生には、大人になりゆく先輩を眺める行事となり他の行事とは趣を異にしています。

魅力ある女性になることが女性にとっての願いの一つであることは、今も昔も変わりがないようです。本町界隈が船場と呼ばれた時代に大商家のご令嬢をはぐむ社会的



責務を負った相愛の歴史に今なお気品を求める「心」が存在し続けていると感じた一日となりました。

華やかでかつ気品を涵養する機会がともに持てたことを心から喜びたいと思います。



5月28日(火)に体育祭を大阪市中央体育館で行いました。体育館での開催は初めてでした。過去を振り返り、かつて存在した豊中のグラウンドで行った体育祭を思い出しました。当時は予行も含めて3日かけて行い、学年別のマスケムがありました。中学生はリズム体操や組体操、武田節(舞踊)を披露し最後は高校3年生の花笠音頭。今のクラスダンスの原型といえます。

その後、場所を大学のある南港学舎に移しての陸上競技会形式に変更した体育大会になり、数年間は堺の新金岡陸上競技場を借りて行ったことも

中央体育館で体育祭を開催 初の試み大成功

ありました。競技場が大きすぎたために再度南港グラウンドに戻り、生徒会主催の形式に変わっていききました。

今年度は思い切って大阪市中央体育館に移しての開催。土の上での競技も魅力的ですが、雨天、熱中症、蜂や毛虫の心配をせず、心置きなく競技に専念することができました。教職員にとっても、生徒たちにとっても初めての試みで心配な面もありましたが、生徒は皆とても一所懸命がんばってくれました。例年通り、最後は、高3のクラスダンスで大いに盛り上がり、大成功の幕引きとなりました。



沖繩の地、満喫 中学修学旅行——沖繩本島

6月12日、関西空港に集合し沖繩への修学旅行が始まりました。1日目は、平和祈念資料館にて、ビデオ視聴などを通じた平和学習をしました。2日目は、おきなわワールドにて、黒糖作り体験。サトウキビの収穫から始まり、完成までの作業をがんばりました。3日目は美ら海水族館見学、そして日本で一番の水質が自慢のビーチでの、シーカヤック、シュノーケリング、ロケットボートを満喫しました。4日目は、首里城公園見学後空港へ向かい、ほぼ時間通りに搭乗して離陸。無事に旅行を終えることができました。

初めての海外、学びの意欲わく

高校修学旅行——シンガポール

相愛高校にとって初めての海外修学旅行が10月14～18日に行われました。行き先は、近年目覚ましい経済成長を遂げているシンガポール。一人あたりのGDPは、長年日本がアジア1位でしたが、ついにはシンガポールに抜かれてしまいました。生徒たちは、その急速な発展を肌で感じたことでしょう。

日本とは違う文化・慣習にとまどいながらも英語での買い物、コミュニケーションにたくましく挑戦していました。思ったように英語が通じず、「リベンジや、もっときちんと勉強してもう1回来よう!」という生徒もいました。天候にも恵まれ、とても充実した修学旅行となりました。



Soai 教養講座



箏曲

音色に癒やされて

本講座は、週1回火曜日の放課後に和室にてお稽古しております。

学生といえどもストレスを感じている現代にあって、音楽する(楽器を奏すること)には、人を癒やす力があるように思います。琴を弾くことで自分自身を癒やし、充実した学生生活となりますようお願いして一人ひとりを指導しております。

華道

師範資格も取得可能

華道は、水曜日の放課後に活動しています。初心者から、師範を取得した人まで、一人ひとりのレベルに合わせたお稽古です。

また、教養講座と授業の両方で華道を取った場合、修得単位数によって、師範資格を取得することも可能です。今年度は4級師範資格を7名が取得しました。

その他、規定単位数を取得すれば、ジュニアいけばな展(産経新聞主催)に個人作を出品することもできます。



相愛音楽教室鑑賞演奏会



牧野葵美ヴァイオリニスト
ピアノ: 田口友子

今年の音楽教室鑑賞演奏会はヴァイオリスト・牧野葵美さんにヴァイオラの魅力をたっぷりと聴かせていただきました。

牧野さんは小2~中3の8年間にわたり相愛音楽教室に在籍、その後、相愛高校・相愛大学を経てジュネーブ音楽院に留学、昨年「第2回東京国際ヴァイオリンコンクール」という難

魅惑の音色に魅了されて

関において見事第3位という栄誉に輝き、現在は国際的な舞台上で活躍されています。

プログラムはバロックから近現代に至るまでの幅広い曲目で構成され、生徒たちは魅力的な音色のヴァイオリンの世界へすっかり魅了されています。

音楽教室 2014年度

教室生募集中

- ・A日程 3月23日(日)
願書受付 2月1日~3月12日
 - ・B日程 4月6日(日)
願書受付 2月1日~3月26日
- 募集対象=学齢2年前より
大学受験生まで

★2014年度春期入室準備
クラス 開講中 毎月受付

★相愛音楽教室通信教育
《楽典》 随時受付

詳しくは募集要項をご覧ください。
お問い合わせ
TEL.06-6262-0662
<http://www.soai.jp/onkyo>

コンクール入賞者

【音楽教室】

● 第25回 子供のためのヴァイオリンコンクール

第2部門B	金賞	谷口 芽里紗 (小2)
第3部門B	金賞	松蔭 さとり (小4)
	銀賞・指導者グループ賞	堀江 香凛 (小3)
	銀賞	谷山 知由 (小4)
第4部門A	銀賞	首藤 主来 (小5)
第4部門B	銀賞	太田 隆奨 (小5)
第5部門B	銀賞	都呂須 七歩 (中1)

● 第37回 ビティナ・ピアノコンペティション

地区本選 F級	優秀賞	市川 貴一 (高1)
	奨励賞	佐藤 希捺 (中2)

● 第7回 全日本芸術コンクール

関西本選 A部門	ヴァイオリン部門 第2位	奥村 珠どり (小2)
	第2位	西岡 舞桜 (小2)
関西本選 B部門	ヴァイオリン部門 奨励賞	阿江 麗 (小6)

● 第15回 関西弦楽コンクール

	優秀賞・審査員賞	堀江 香凛 (小3)
	優秀賞・審査員賞	田中 響 (小4)
	優秀賞・審査員賞	首藤 主来 (小5)
	優秀賞・審査員賞	森田 恵美里 (中3)
	優良賞	渡邊 紗蘭 (小3)

● 第12回宝塚ベガ学生ピアノコンクール

中学生部門	第3位	佐藤 希捺 (中2)
-------	-----	------------

● 第14回 大阪国際音楽コンクール

弦楽器部門 Age-J	エスポアル賞	久留 早百合 (中3)
ピアノ部門 Age-H	入選	細田 知佳 (高2)

● 第5回オイストラフ国際ヴァイオリンコンクール(モスクワ)

ジュニア部門	第2位	内尾 文香 (高2)
--------	-----	------------

● Le Muse音楽協会
第32回若いピアニストのための国際コンクール(ナポリ)

カテゴリーC	第3位	久留 亜沙美 (高2)
--------	-----	-------------

● 第67回 全日本学生音楽コンクール

大阪大会 バイオリン部門		
小学生の部	第1位	石川 未央 (小6)
	第2位	前田 紀奈 (小5)
	入選	窪田 隼人 (小5)
中学生の部	第3位	久留 早百合 (中3)
	入選	岩谷 弦 (中1)
	入選	陳 法熙 (中3)
高校生の部	入選	小椋 小野花 (高3)
大阪大会 声楽部門		
高校生の部	第1位	佐々木 涼輔 (高2)

● 第23回 日本クラシック音楽コンクール

地区本選ヴァイオリン部門	優秀賞	堀江 香凛 (小3)
小学校の部		
地区本選ヴァイオリン部門	優秀賞	石川 未央 (小6)
中学校の部		
地区本選ピアノ部門	優秀賞	佐藤 希捺 (中2)
中学校の部		

● 第5回徳島音楽コンクール

弦楽器部門	金賞	谷口 芽里紗 (小2)
小学1~3年生の部		

【中学 音楽科進学コース】

● 日本ピアノ教育連盟 第30回ピアノオーディション

本選出場	原田 友梨佳 (中3 Pf)
------	----------------

【高校 音楽科】

● 第1回いかるが音楽コンクール予選会

優秀賞	大出 めぐみ (高3 Pf)
-----	----------------

● クオリア音楽フェスティバル第3回オーディション
(茨木市民会館大ホール・NPO法人 con brio)

アーティスト部門第3位	竹西 朋子 (高3 Vn)
-------------	---------------

● 第15回関西弦楽コンクール

優秀賞・審査員賞	竹西 朋子 (高3 Vn)
----------	---------------

● 第67回全日本学生音楽コンクール大阪大会

バイオリン部門高校の部 入選	竹西 朋子 (高3 Vn)
----------------	---------------

● 第25回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール

地区本選 銅賞	西村 利香 (高3 Fl)
全国大会 第4位	水野 加菜 (高3 Cl)

● 第6回ミュージックアカデミーinみやざき

優秀賞	登坂 理利子 (高3 Vn)
-----	----------------

● 第67回全日本学生音楽コンクール大阪大会

バイオリン部門高校の部 入選	柳原 史佳 (高3 Vn)
----------------	---------------

● 第13回泉の森ジュニアチェロコンクール

高校生以上の部 銀賞	芝内 あかね (高3 Vc)
------------	----------------

● 第67回全日本学生音楽コンクール東京大会

チェロ部門 高校の部入選	芝内 あかね (高3 Vc)
--------------	----------------

● 第1回 ポッパージェロコンクール

金賞	芝内 あかね (高3 Vc)
----	----------------

● 第4回 関西トランペット協会コンクール

フリースタイル部門 ベストパフォーマンス賞	生駒 夢 (高2 Tp)
-----------------------	--------------

● 第14回大阪国際音楽コンクール

ピアノ部門Age-H 全国大会入選	細田 知佳 (高3 Pf)
-------------------	---------------

● 第67回全日本学生音楽コンクール大阪大会

バイオリン部門 高校の部第3位	芝内 もゆる (高1 Vn)
-----------------	----------------

平成25年度 コンサート報告

【高校】

高1 芝内 もゆる(Vn)
● 関西芸術文化アカデミー-EVENT No.68
● 期待される若き演奏家の集い
(茨木クリエイティブセンターホール)(5/5)

高3 竹西 朋子(Vn)
● 第15回関西弦楽コンクール 受賞者発表演奏会

高3 中村 友希乃(Vn)
● 関西芸術文化アカデミー-EVENT No.68
● 期待される若き演奏家の集い
(茨木クリエイティブセンターホール)(5/5)
● 国際音楽祭ヤング・プラハ 日本代表
● 世界に翔く若き音楽家たち(10/13)

高3 登坂 理利子(Vn)
● 阪急電鉄逸翁美術館マグノリアホールにてソロリサイタル
● 社団法人 清交社にて新春演奏会
● 第59回相愛オーケストラ定期演奏会 ソリストとして
● 第23回京都フランス音楽アカデミーにて
優秀受講生による選抜コンサート
● 第18回宮崎国際音楽祭「新星たちのコンサート」

高2 生駒 夢(Tp)
● 第4回関西トランペット協会コンクール 受賞者演奏会
● 平成25年度関西トランペット協会フェスティバル(11/17)

高2 長尾 怜奈(Vn)・中3 松岡 のどか(Vn)
● ベガ・ストリングスフェスタ アンサンブル(10/19)
宝塚ベガ・ホールにて



今年も愛響祭が開催されました!



大学祭実行委員会
委員長 岩崎義樹

今年で31回目となる大学祭、「愛響祭」も無事終わることができました。大学祭実行委員会の委員長としての目標は、昨年の愛響祭よりも在学生にもっと参加してもらうことでした。4月の時点で委員数が昨年の29名から14名に減った時は「本当に成功させることができるのか」と



不安に思いましたが、学生支援センターの職員の方々や大学の関係者の方々、さらには大学祭実行委員会以外の学生の協力やお手伝いによってスムーズに大学祭に向けて準備することができました。

大学祭当日はあいにくの雨で、お客さんに来ていただけるか心配でしたが、例年通りたくさんの方々にお越しいただきました。2日目の後夜祭では最高の盛り上がりを見せフィナーレを迎えることができました。あの時の仲間の笑顔は



今でも僕の心に残っています。

大学祭を終えてみて、1年間つらい時もあったけれど、仲間になったこともありましたが友達に手伝ってもらったり、先輩に話を聞いてもらって立ち直ることができました。大学祭の委員長を務めさせてもらって本当に良かったと思います。

お互いの文化を知ろう ～文化交流会～

大学祭当日、さまざまな国や地域出身の学生による交流会が開催されました。プレゼンテーション形式での自国文化の紹介はどれも面白く、終始和やかな時間のなかで、互いの文化を知ることができました。

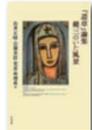


▶ 本学教員の近刊図書

『道草』論集—健三のいた風景

鳥井正晴、荒井真理亜
宮園美佳(編集)

●和泉書院
(2013年10月発行) 定価7,875円(税込)



ブッタの伝道者たち

积徹宗 著

●角川選書
(2013年7月発行) 定価1,785円(税込)



仏教シネマ

积徹宗 共著

●文春文庫
(2013年9月発行) 定価620円(税込)



中之島図書館、新たな百年の一步

呉谷充利 著

●明日の中之島図書館を考える会
(2013年5月1日発行) 定価200円(税込)



仏教ではこう考える

积徹宗 著

●学研M文庫
(2013年7月発行) 定価690円(税込)



落語でブッタ

积徹宗 著

●NHK出版(趣味Do楽テキスト)
(2013年11月発行) 定価1,050円(税込)



現代靈性論

积徹宗 共著

●講談社文庫
(2013年4月発行) 定価610円(税込)



聖地巡礼ピギニング

积徹宗 共著

●東京書籍
(2013年8月発行) 定価1,575円(税込)



この世を仏教で生きる

积徹宗 共著

●本願寺出版社
(2013年12月発行) 定価1,260円(税込)



学校法人 相愛学園 2012(平成24)年度 事業報告

I. 法人の概要

■ 1. 学校法人相愛学園の概要

(1) 建学の理念

学園名の由来となった「當相敬愛(とうそうきょうあい)」という一語は、建学の精神として永く相愛学園を導いてきた。「當相敬愛」は、大乘仏教、とくに浄土真宗の依拠する浄土三部経の『仏説無量寿経』に示されている「當相敬愛、無相憎嫉(當に相敬愛して憎嫉することなかかるべし)」という節の一語であり、「自らを愛するように他者をも相敬愛し」とその意味を押し広げることができる。さらに言うならば「こころ」「おこない」「ことば」を調えて人生を生き抜くことを教えている。従って、相愛学園の指針である「當相敬愛」は、今日要請されている教育思想の根幹となる「共生(敬)」「利他(愛)」の基本とも通底する精神である。グローバル化やそれに伴う競争的の社会のもと、社会的格差が拡大しつつある現代社会において「當相敬愛」の精神を基盤にした教育思想は「共生」と「利他」を可能にする内的規範意識の形成に深く関与し、それを涵養することを使命としている。以下は、「共生」と「利他」の思想のもと営まれる教育目標である。

「當相敬愛」の精神を基盤にした教育目標

- ◇ 生命の尊さを学ぶ
- ◇ 人生の目的を探究する
- ◇ 市民的公共性を養う
- ◇ 総合的な判断力を養う
- ◇ ボランティア精神を涵養する

(2) 設置学校・所在地

【設置学校】

- ◆相愛大学
- ◆相愛高等学校
- ◆相愛中学校

【所在地】

- ◆南港学舎(大学) 大阪府大阪市住之江区南港中4-4-1
- ◆本町学舎(高等学校・中学校・大学(音楽マネジメント学科)) 大阪府大阪市中央区本町4-1-23

(3) 各学校の収容定員・現員(平成24年5月1日現在)

学部	学科	入学定員	収容定員	在籍学生	
大学	音楽学部	音楽学科	120	480	357
		音楽マネジメント学科	50	100	40
		専攻科	12	12	16
		計	182	592	413
	人文学部	日本文化学科	60	280	185
		英米文化学科※1			2
		人間心理学科※2		160	93
		社会デザイン学科※2		120	31
		仏教文化学科	60	120	13
		文化交流学科	60	120	14
		計	180	800	338
人間発達学部	子ども発達学科	100	400	294	
	発達栄養学科	100	400	244	
	計	200	800	538	
	合計	562	2192	1289	

※1 平成21年度より募集停止 ※2 平成23年度より募集停止

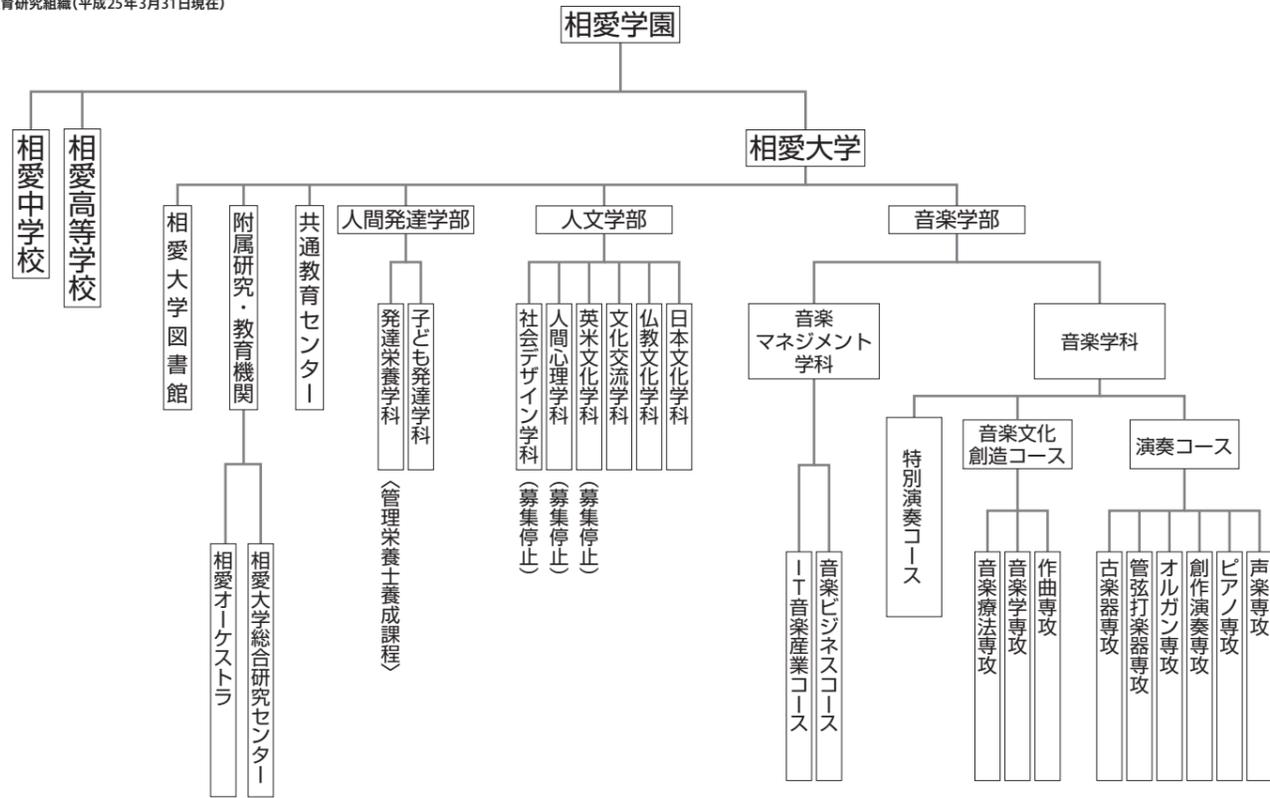
高等学校	普通科	360	1080	275
	音楽科	40	120	77
	計	400	1200	352
中学校	特進・進学・音楽コース	150	450	157
	計	150	450	157
高等学校・中学校計		550	1650	509

(4) 沿革

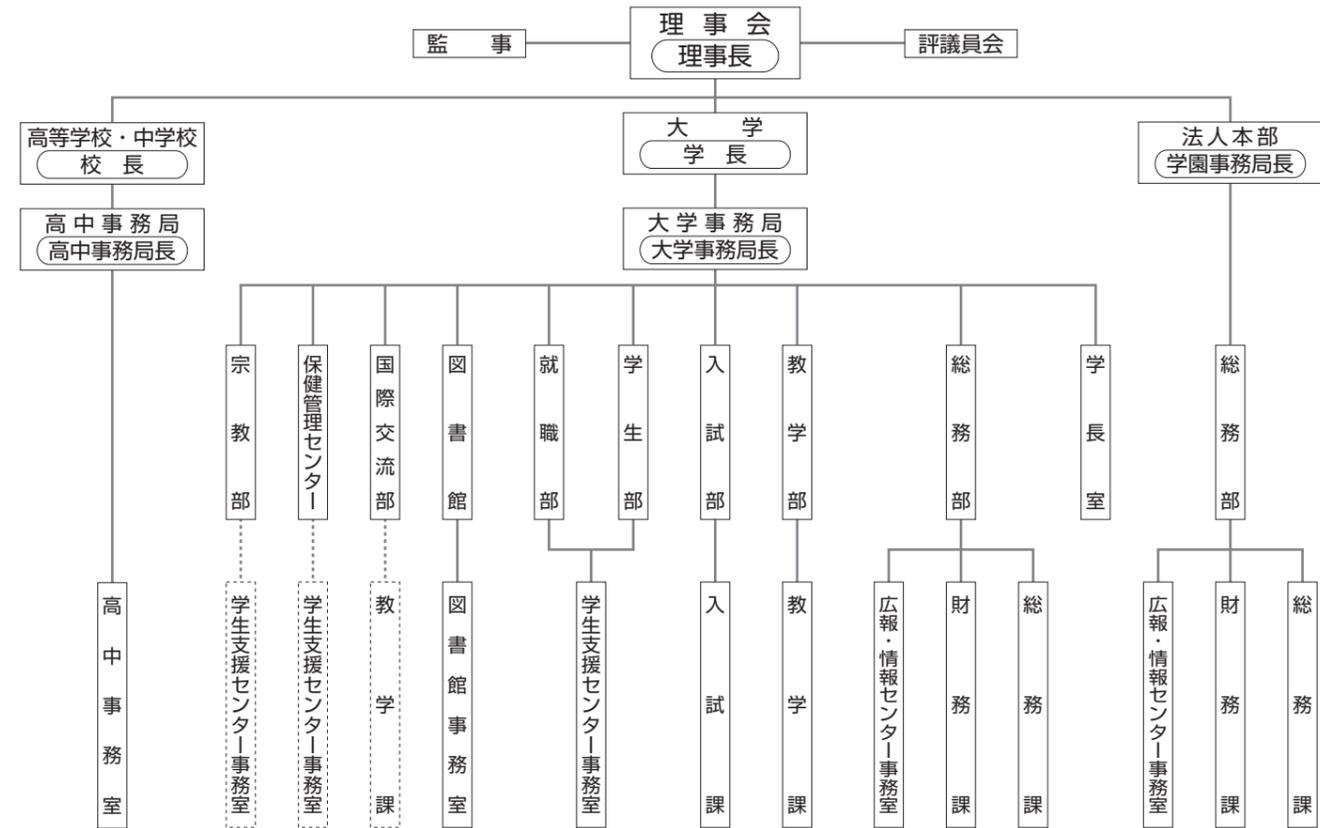
1888年(明治21)	●大阪市本町(現高等学校・中学校所在地)に相愛女学校設立
1906年(明治39)	●西本願寺第二十一宗主明如上人の妹君、大谷朴子初代校長就任
1911年(明治44)	●相愛高等女学校と改称
1928年(昭和3)	●大阪女子音楽学校設置
1928年(昭和3)	●財団法人相愛学園設立
1937年(昭和12)	●相愛女子専門学校設置
1947年(昭和22)	●相愛女子専門学校に音楽科新設
1947年(昭和22)	●相愛中学校設置
1948年(昭和23)	●相愛高等学校設置
1950年(昭和25)	●相愛女子短期大学設置
1951年(昭和26)	●学校法人相愛学園に改組
1953年(昭和28)	●短期大学に家政科・音楽科増設
1955年(昭和30)	●高等学校に音楽課程開設
1955年(昭和30)	●子供の音楽教室開設
1958年(昭和33)	●相愛女子大学(音楽学部)設置
1958年(昭和33)	●大木淳夫作詞 山田耕筰作曲 新学園歌完成
1982年(昭和57)	●相愛女子大学を相愛大学と校名変更
1983年(昭和58)	●音楽学部男女共学を実施
1983年(昭和58)	●大学・短期大学を現キャンパスの大阪南港に移転
1984年(昭和59)	●大学に人文学部設置
1987年(昭和62)	●短期大学に英米語学科設置
1994年(平成6)	●南港学舎学生厚生施設棟(現学生厚生館)・教育研究棟(現4号館)完成
1995年(平成7)	●相愛女子短期大学家政学科食物専攻を生活学科衣生活専攻に名称変更
1995年(平成7)	●家政学科被服専攻を生活学科衣生活専攻に名称変更
1999年(平成11)	●相愛女子音楽専攻科設置
1999年(平成11)	●相愛女子短期大学生活学科食物専攻を食物栄養専攻に、衣生活専攻を人間生活専攻に名称変更
2000年(平成12)	●相愛女子短期大学生活学科食物専攻を食物栄養専攻に、衣生活専攻を人間生活専攻に名称変更
2000年(平成12)	●相愛女子短期大学人間関係学科を増設
2000年(平成12)	●音楽学部3学科を統合し音楽学部音楽学科を開設
2006年(平成18)	●人文学部に人間心理学科・現代社会学科を増設
2006年(平成18)	●相愛女子短期大学に人間関係学科を増設
2006年(平成18)	●相愛大学人間発達学部(子ども発達学科、発達栄養学科)設置
2008年(平成20)	●学園創立120周年、「新たな始まり」相愛大学人文学部現代社会学科を社会デザイン学科に名称変更
2011年(平成23)	●相愛大学音楽学部を音楽マネジメント学科を増設
2011年(平成23)	●人文学部を日本文化学科、仏教文化学科、文化交流学科の3学科に改組

■2.教育改革人事

(1) 教育研究組織(平成25年3月31日現在)



(2) 事務組織(平成25年3月31日現在)



II. 事業報告の概要

●大 学

■1. 教育に関する事項

(1) 音楽学部

①音楽学科

音楽学科は学生が高度な音楽的技術を修得することを主要な目的の一つとしており、その達成のために、通常の実技科目に加え、国内外から招聘した客員教授や講師による特別レッスンを実施した。その数はおよそ20回に及んでいる。外国からは、本学客員教授を中心に、ドイツ・イタリア・ポーランド・フランス・アメリカなど、多方面からバランス良く招聘した。また、演奏会という場も学生の教育には不可欠であり、平成24年度は、相愛オーケストラ定期公演(第58回、59回)及び特別演奏会(びわ湖ホール)や相愛ウィンド・オーケストラ定期公演(第34回)及びポップスコンサート(第6回)、第21回学内オペラ公演(演目/コシ・ファン・トゥッテ)、各種楽器によるアンサンブル演奏会など学生自身が主体となる演奏会を23回、学生が鑑賞することによって学修する教員による演奏会を4回開催した。

社会貢献事業としても位置付けられる教育関連事業として、以前から実施していた大阪府立急性期・総合医療センターでの演奏会に加え、大阪市立大学医学部附属病院でも患者向けに演奏会を実施した。

その他、国際学術交流協定締結校との交流を促進させ(詳細は国際交流に関する事項参照)、大学院設置に関する検討や、在学生を伴って高校の吹奏楽を指導する広報活動の展開などを開始した。ただ音楽学科の教育研究上の基本的条件は「演奏量・教育能力・音楽教養の3方向に広がる領域の中で、個々の学生を位置づける」ことあり、その点から顧みれば、演奏量に重心が偏り過ぎていたことを反省しなければならない。

②音楽マネジメント学科

平成24年度における音楽マネジメント学科の事業実績は、学生の実践教育の実施、本町校舎を活用した地域・産学連携事業を行った。

地域・産学連携事業については、音楽関係の公開講座として、

(1)「パソコンソフトによる音楽の録音や編集をProtocolsでマスター」

(2)「音楽のためのボディワーク〜西洋の分析と東洋の総合〜」

(3)「クール・ジャパンとベンチャービジネス マンガ・アニメ」ポップのこれからは?」を開催した。

地域連携イベントとして、

(1)「堺筋街角コンサート」(少彦名神社、五感北浜本店)

(2)北船場茶論運営委員会主催「北船場茶論」運営協力

(3)中央区主催「中央区にぎわいスクエア」運営協力

(4)「船場博覧会街角コンサート」(りそな銀行本店地下講堂)

(5)集英校下社会福祉協議会主催「後期高齢者のための音楽会」企画運営

(6)「なんば学生祭」(道頓堀リバーウォーク)企画運営協力

(7)中央区主催「中央区チャリティフェスティバル」(中央区民センター)運営支援

(8)中央区主催「中央区企業市民協働セミナー」(トレードピア淀屋橋)運営協力

(9)集英校下社会福祉協議会主催「未就園児親子対象音楽会」(大阪市産業創造館)企画運営を行った。

●学生募集活動として高校生向け特別公開講座

(1)「テーマパークの楽しい企画を作ってみよう〜音楽のシゴトはこんなにある〜」

(2)「コンピュータで広げる音楽の世界〜自分の声で初音ミク!〜」

(3)「コンピュータで広げる音楽の世界〜ぐるぐる回る!変わる!音の動きを追いかけよう〜」

(4)「音楽のシゴト2012〜僕らが見つけた未来〜」を本町学舎で行った。

●平成24年度結果について

1. 地域・産学連携事業としての公開講座

(1)三本楽器の協力により、Protocols操作に関する高校生、大学生向け公開講座を行った。学生のみならず、教職員も参加し、充実した講座だった。ソフトウェア(Protocols)のインストール台数が限られているため、大きく集客できなかった。次年度以降、インストール台数を増やし、集客も多くなれば、本事業の価値がより高まると思われる。

(2)沙羅の木会をはじめとする、音楽関連講師の参加が多かった。音楽学科の教員から、音楽学科の学生にも教えたいという希望が

出され、講座担当者からは、さらに研究を深めて、相愛ブランドの方法論として普及すべきだという意見が出された。

(3)関西学院大学教授の奥野卓司先生の講義だったためか、放送業界、デザイン業界など専門性を持った社会人の参加が多かった。Ustreamでの配信も行い、音楽マネジメント学科の存在を各業界に知らしめる良い機会となった。来年度も引き続き行いたい。

2. 地域連携イベント

(1)堺筋アメニティ・ソサエティ主催の「堺筋街角コンサート」にて、相愛大学の学生が演奏するときのみ、運営の協力を行った。堺筋の各企業が参加する会では、学生の動きを各企業の方々を知る良い機会となり、また様々なご指導も地域の方々からいただく機会となった。

来年度からは、この取り組みをさらに強化し、相愛大学の学生の演奏だけでなく、毎月の街角コンサートの運営を音楽マネジメント学科の学生に任せられることとなった。地域社会での役割を担う絶好の機会として、来年度以降もさらにこの立場を活用したい。

(2)行政ではなく、地域団体主催で行う「北船場茶論」の音楽演奏協力のみならず、インフォメーション各所を学生が任せられ、運営の一端を担った。本年度が初めての試みであったが、ボランティア企業の方々との見えも良く、来年度も引き続きインフォメーションを任せられることとなった。学生という立場ではなく、企業の方々と共に運営協力スタッフとして同等の扱いはされる場合は、社会人基礎力養成にも役立つと考える。来年度以降も、積極的に協力していきたい。

(3)(7)(8)中央区主催のセミナーやイベントにて、運営協力およびコンサート提供などを行った。中央区内にある大学という存在を地域の方々から知らしめる良い機会となった。来年度以降も中央区主催イベントの運営協力を積極的にしていきたい。

(4)船場地域のイベントにて、堺筋を中心にコンサート運営を5日間にわたり行った。会場の違うそれぞれの場で、どのように音楽をお客様に楽しんでもらうのかを考える良い機会となった。また、この5日間の中で、企業の人事担当の方々から、「あのような学生は欲しい」と言っていたことも数社あった。学生の動きぶりを各所で見ていただけた良い機会なので、来年度もさらに積極的に貢献していきたい。

(5)(9)集英校下というかなり狭い地域の社会貢献活動に音楽を絡めた企画を持ち込み、運営させていただいた。高齢者向けにも、未就園児向けにも、大変好評だったため、来年度は頻度を上げて開催する。学生にとっては、様々な年代のお客様に直接感想を述べられる、非常に緊張した機会である。

(6)主にPAを中心とした運営協力であったが、他大学の学生も巻き込み、学生同士をマネジメントしていくという機会であった。今年度は、PAという限られた範囲であったので、来年度は実際に企画運営を行う中心的な位置づけとして学生を参加させたい。

3. 高校生向け特別公開講座

(1)〜(3)の公開講座では、それぞれ10人以下の参加者ではあったが、参加者のうち高校3年生全員が受験し、実際に入学したという濃い講座となった。ただし、教職員の負担も大きかったので、来年度は1日体験入学などといった形を取り、やり方を変えた高校生向け公開講座を行いたい。

(4)相愛学園本町学舎講堂で行った「音楽のシゴト2012」は、高校生の割合が多かったものの100人程度の集客にとどまり、必ずしも成功したとは言えなかった。

来年度は、形を変え、場所も本町学舎のアンサンブルスタジオとし、もっと学生主体のイベントとできるよう、学生がどのように動いているのかを参加している高校生が見ることができるよう、実感できるようなイベントとした。

これらの活動を踏まえて、来年度以後は社会人入学の可能性を模索する。

(2)人文学部

今年度も、人文学科の役割を広く社会や教育現場に伝えるため、以下のような事業を学部として実施した。5回目となる「人文学科の挑戦」と題するシンポジウムを7月28日に開催した。今回は「大阪のインテリアジェンズ」をテーマに芸能人・詩人・雑誌編集者を招き、本学教授とのトークセッションを展開して人文学科の可能性を探究した。8月29〜31日には、「みんなの現代霊性論」と題して、人文系の著名な講師による公開集中講義を行った。連日多くの来聴者があり、社会や地域に開かれた大学・学部としての評価を得ることができた。11月22日には、「相愛寄席」を学部行事として開催した。大阪落語の重鎮・中堅・若手の出演に、昨年を上回る来場者を得たが、運営の中心にあった学生ス

タッフには貴重な社会経験になったものと思われる。

また、恒例の人文学部公開講座を6回行った。「人文の時」という共通テーマのもとに、真宗学・文学・心理学・社会学・経済学・歴史学等の分野の専任教員が担当し、地域貢献の一翼を担った。

平成25年度から、人文学部が人文学科1学科体制へと移行することになったため、教育現場等への広報活動を強化し、一定の成果を収めることができた。

①日本文化学科

秋に恒例の学外研修を奈良で実施した。これは古寺社・史跡の踏査を実体験するもので、学生には知見を広めるとともに教員との交流を深める良い機会となった。

②仏教文化学科

大阪市天王寺区にある應徳院で行われたシンポジウムを共催し、仏教文化学科の特質を学外に伝える機会とした。また、龍谷総合学園が夏期交流学習として毎年実施している「龍谷アドバンス・プロジェクト」に参加した。

③文化交流学科

日本人学生と留学生の交流会を実施し、相互理解を深めるとともに、コミュニケーション能力の向上を図った。

④人間心理学科

認定心理士の申請手続きを援助するための説明会を学科内で実施し、必要に応じて学生の個別指導を行った。また、卒業研究提出後に卒業研究発表会を開催し、学生のプレゼンテーション能力の向上を図った。

⑤社会デザイン学科

学生に社会調査法を実体験させるためのフィールド調査を実施し、その成果を発表する機会を作るとともに、報告書の作成を学生に担当させた。

学部行事として実施したシンポジウムは、7月末の開催と言うこともあって入場者が予想よりも少なかった。これについては、広報戦略の練り直しが求められる。他の2つの行事は、昨年を上回る入場者を得て好調であった。

次年度も、こうした学部事業を継続し広報強化の一助としたい。各学科の行事は、年間1〜2回程度にとどまり低調の感が否めない。次年度は、魅力ある学部・学科にするための施策を実行し学生の帰属意識を高めることにしたい。

(3)人間発達学部

人間発達学部では、専門的知識に基づく対人支援能力を学生に育成することをめざした教育内容・方法の研究をふまえ、各学科が養成する資格・免許取得の専門性習得につながる就業力支援、キャリア形成支援の取り組みを以下の通り実施した。

①子ども発達学科

1)キャリア形成支援の充実と相愛大学教育改革経費にかかる事業の推進

キャリア形成支援の充実をめざし継続して取り組んでいる事業(大学における子育て文化継承支援「つよぼのクローバー」、専門職育成のためのスキルアップ支援、学生の出前実践活動等)については、PDCAサイクルに基づき効果の検証をふまえ、方法を改善し実施した。

特に、本学科の教育方法の特徴である主体的・実践的学び体制を強化するため、平成24年度相愛大学教育改革経費により「保育・教育職のための体験を重視した就業力育成支援」(おもしろスキルアップ講座シリーズ、入学前ピアノ入門講座、採用試験対策講座等)を実施した。実施にあたっては、保育・教育職として働く卒業生や地域の現職者の参画を図り、学び体制の充実と共に可能な限り社会貢献にもつながるようなプロデュースを試みた。

さらに、環境整備として「教職・保育職演習室」「子ども発達演習室」を設置し、学生の主体的な学びの支援を図った。結果、平成24年度卒業生の就職率は94.9%(平成25年5月1日現在)を維持、うち保育士資格や幼稚園教諭一種免許状を活用した就職者が約60%、4月より小学校の教壇に立つ者が約24%である。

2)学外実習支援の充実

初年次から4回までの中で展開される資格・免許にかかる専門性を高めるために編成された学外(保育・教育現場)での実習に対し、専任教員全員での協働体制および4年間継続して展開するための教育方法の研究を行い、実習指導の充実を図った。取り組み成果は、実践研究として真宗保育学会第19回大会で発表し、本学研究論集にまとめた。

平成24年度はおもしろスキルアップ講座や採用試験対策講座

相愛大学

相愛大学 大阪府吹上キャンパス 吹上キャンパスの校舎

等の課外での実施プログラムについては、学生が参加しやすい時間の設定と継続した指導の実現が課題である。

平成25年度はキャン(スタ)タイムの利用方法が改善されたためその時間の有効な活用と、継続指導の工夫と展開に取り組む。

また、あらたに配置した「子ども発達演習室」の学習環境を、学生がさらに主体的に学べるよう整備したい。

②発達栄養学科

1)管理栄養士国家試験受験支援と臨地実習支援
1、2、3回生を対象に3回の模擬試験の実施。4回生に対しては、全教員による学力向上強化対策ゼミ、過去問解説と不得意科目克服のための集中講座、学内模擬試験(8回)、外部模擬試験(7回)、外部講師等による特別講義などの強化充実策を実施した。
また、環境整備として管理栄養士対策演習室を設置、管理栄養士合格者の卒業生を常駐させ、対策施行の合理化と、学生の自己評価のスピード化を図った。

さらに保護者に対しては、模擬試験の成績の提示及び保護者を開催し、受験に対する支援を依頼した。
臨地実習支援についても、実習施設側から勉学意欲やマナー習得において、一定の評価を得ることができたマナー体得講座を平成24年度も継続して実施した。

2)コミュニケーション能力と実践力の育成

学生の食・健康に対する好奇心や探究心、人とのコミュニケーション能力と実践力を育成し、就業力の向上を図るため、大阪府・大阪市、豊中市、外食・流通産業、食品産業等および地域と連携・協働した事業を実施してきたが、平成24年度はさらに体制を強化し、年間30回を超える地域連携事業を行った。

具体的には「食育推進キャンペーン」、「糖尿病予防セミナー」をはじめ、「コンビニや仕出し弁当開発プロジェクト」も新たに加わった。

また、産官学連携による「マジごはん食育ヤングリーダーフォーラム」、「食と防災シンポジウム」、「食と運動・健康フェスタ」などの企画、「やすらぎ病院探検隊」、「豊中市親子料理教室」、「住之江区健康展」、「大阪ヘルスジャンボリー」への協力、各種コンテストの作品応募への参加支援等積極的な社会貢献活動を強力に支援した。

これらの結果、学生の主体的取組力や傾聴力が有意に強化されたことがアンケート調査により確認された。

以上の活動は就職率のアップにもつながり、平成24年度卒業生就職決定率は94.3％(平成25年5月1日現在)(前年の約10％増)、うち栄養士資格による就職率70％(前年の15％増)である。今後も学生の実践力強化を図りたい。

相愛大学 吹上キャンパス 吹上キャンパスの校舎

平成24年度については国家試験合格に向けた様々な模試や講座の実施に対し、学生側の勉学意欲が多少一致しなかった面が感じられた。今後は学生の勉学意欲を早期から刺激し、盛り上げてゆく必要性があると思われた。学生の就職率では良い成果が得られたが、今後は就職率95％以上をキープできるように一層の努力を重ねたい。

(4)共通教育センター

基礎・共通科目、教職科目、図書館司書・学校図書館司書科目等を提供するとともに、学修支援室を運営した。また、非常勤講師との様々な連絡・調整を行った。さらに、FD委員会と連携してFD活動を推進した。具体的には以下のように事業を展開した。

①基礎・共通科目の運営

開講科目数の適正化などの検討を開始し、新たに設置された教育課程改革検討委員会と連携して次年度中に新カリキュラムの策定を行うことが決定された。専任担当者間で協議し「大学生のための日本語入門」のシラバスの共通化を図った。

教材として新聞記事を採用してきたが、その有効性が社会人キャリア育成アセスメントの結果によって示された。

また、キャリアデザイン科目に、スマートフォンアプリの開発プロジェクトを体験するというアクティブラーニング型の授業が導入された。

②教職課程の運営

教職履修カルテを改良するべく、教員評価に関して、従来の教員ごとの評価表に加えて、学生ごとの各履修科目の教員評価を一覧できるようにシステムの構築を行った。

また、大阪市教育委員会その他計5つの教育委員会と連携して学校支援ボランティアに参加し、教職課程を履修する約80人の学生が約30の中学校、小学校、幼稚園において活動した。

③司書・司書教諭課程の運営

文部科学省令による、「大学において履修すべき図書館に関する科目」として新たに開講し、順調にスタートを切ることができた。

その結果、司書として3人が大学図書館に就職し、1人が高校図書館に司書教諭として就職できた。実践的な情報リテラシーを身につけた即戦力の人材となることを目指した情報検索基礎能力試験にも受験者全員が合格した。

④学修支援室の運営

開室時間帯の変更や予約制の導入など、来談しやすい環境の整備に努めたが、相談数は伸び悩んだままであった。

しかし、相愛大学学修支援室規程が制定され、学修支援室運営連絡委員会が組織されたことにより、次年度からの全学的な取り組みが可能になった。

⑤非常勤講師との連絡・調整

前年度の懇談会で寄せられた質問や要望を各部署に伝えるなどして、回答や実現に努めた。また、3月に懇談会を開催した。FD研修会にも延べ6人の参加をえることができた。

⑥FD活動

3回の研修会や授業公開の実施を援助し、コメントの作成を行った。

⑦情報収集

全国私立大学教職課程研究連絡協議会の「私立大学における教員養成の高度化」をテーマとする大会と「教職実践演習の事例研究」分科会や、阪神地区私立大学教職課程研究連絡協議会の中教審咨申「教員の資質能力の総合的向上方策について」に関する会合などに参加した。

また、学修支援室の機能拡大に必要な情報を収集するため、他大学を訪問した。

相愛大学

平成24年度事業については、基礎・共通科目カリキュラムの見直しや学修支援室の利用率アップに努めたが、十分な成果を得たとは言い難く、次年度への継続課題となった。
また、教員採用試験の合格者や司書・司書教諭としての就職者が複数生まれたことは本学としては画期的であるが、まだ自慢できる人数とは言えず、一層の増加に努めねばならない。

(5)教育改革経費

本経費は、「教育改革経費は本学の教育改革のために、全学もしくは各局部等で実施するプロジェクト」又は実施中の特色ある事業に対して支援を行うことを目的とする。」(相愛大学教育改革経費に関する規程第2条)として、平成23年度にはじめて措置されたものである。

対象事業は「(1)文部科学省が実施する教育にかかる支援プログラム等に関する事業、(2)本学が全学もしくは各局部等で実施する教育改革に関する特色ある事業、(3)その他、教育推進本部が必要と認めた事業」(同第3条)である。
本年度は、2月に公募を行い、昨年度から継続の事業4件に加え、新規事業5件を採択し、年度当初より実施した。以下はその事業名である。

- 「Active - 5J」(主体的学習法の実践)(教務委員会・共通教育センター・教學課・入試課)
- 「カリキュラム改革による教育力の強化」(教務委員会・FD委員会・教學課)
- 「学生によるボランティア組織の確立と支援」(学生委員会)
- 「プロフェッショナルトレーニング」(音楽学部演奏委員会)
- 「保育・教育職のための体験を重視した就業力育成支援」(人間発達学部子ども発達学科)

【以上、新規事業】

- 「ポータル活用による学生支援体制の基盤構築」(情報システム運用委員会)
 - 「教職員による能動的キャリア支援体制の確立」(就職委員会)
 - 「ポータルの活用による授業の出欠管理」(教務委員会)
 - 「能動的学生支援プログラムの試験的導入」(教務委員会)
- なお、全学に向け、9月に、平成23年度事業4件の実施報告会を開催した。

■ 2. 研究に関する事項

(1)研究推進本部

研究は、大学教育の根幹をなすものである。本学は、市民の精神文化の支柱としての役割を担うとともに、地域の文化・社会・産業の発展に寄与する優れた研究を推進していくことが求められる。
大学教育の高度化と質の保証に即応し、本学がその特色を発揮するために、研究体制の確立に向けての改革を、研究推進本部を中心に、教職員一体となって進めてきた。

①相愛大学総合研究センターの設置

平成24年4月に、本学を特色づけるさまざまな学問分野にわたる

学際領域の研究を推進するため、学部の枠を超えた柔軟で開放的なプロジェクト型の研究を推進できる組織、相愛大学総合研究センターを設置した。これに伴い、従来の音楽研究所、人文科学研究所、人間発達研究所の3研究所を平成23年度末をもって廃止した。

②重点研究の支援

研究推進本部は、平成22年度に整備された研究助成に関わる諸規程に基づき、優れた研究を推進しつつある研究グループを大学として重点的に支援した。

平成24年度の応募は、重点研究A1件、特別演奏会助成1件であった。採択された研究テーマは、特別演奏会助成「フルートの歴史～人々はなぜ笛の音に惹かれるのか～」であり、本学を特徴づける研究が開始された。

また、学術図書助成については今年度は応募がなかった。
なお、平成23年度より開始した重点研究A「インターネットが音楽と芸術活動に及ぼす変革」及び重点研究B「食育SATシステムを利用した食事指導システム構築と地域連携ネットワーク拠点構築に関する調査研究」の中間評価を行った。

③外部資金の獲得及び公開

外部資金の積極的な獲得が求められているため、全ての教員に科学研究費の申請を促した。

その結果、科学研究費の申請・受理件数は増加した。平成24年度は、30件申請されこのうち12件(音楽学部1件、人文学部5件、人間発達学部4件、共通教育センター1件、その他1件)が採択された。また、平成25年度に向けて本学の非常勤講師が申請をすることができるよう、「相愛大学非常勤講師等の科学研究費助成事業等の申請等に関する取扱い要綱」を整備した。
その結果、平成25年度の科学研究費の申請件数は、28件であった。

さらに、民間企業から委託を受けて行う研究は4件、本学における教育研究の奨励を目的とした教育研究奨励寄附金4件、本願者派教学助成財団よりの助成金1件、合計3,462,763円と前年度より外部資金の獲得が増加した。これらの外部資金の獲得状況や外部資金による研究テーマをホームページ上に広く公開した。

④規程の整備

平成25年度に向け、本学を特色づけるさまざまな学問分野にわたる研究を推進するため、外部資金の受け入れの規程を整備した。即ち、「受託研究取扱い規程」「共同研究規程」「教育研究奨励寄付金規程」である。
今後、全学における研究推進方策をさらに検討し、また、研究・教育面の基盤の整備・充実に取り組んでいきたい。

相愛大学 吹上キャンパス 吹上キャンパスの校舎

平成24年度事業計画の実施に関しては相愛大学研究助成において採択された研究が、本学を特色づける研究としての適切性及び必要経費、使途等についての審査を研究助成規程に基づいて行っているが、今後は、中間報告書と口頭発表を精査し、研究内容・進捗状況によっては当該研究の見直しを求めることも必要である。

また、科学研究費助成事業等の外部資金獲得に向け情報提供などのサポートを実施しているが、今後は、学内のサポート体制をさらに強化し具体的、組織的に行うことが重要である。

さらに、研究シーズを把握しホームページにアップする等学内外に向けての情報発信を強化する必要がある。

なお、外部資金使用に関しては、文部科学省の「研究機関における公的研究費の運営・監査のガイドライン」に基づき、機関として公的研究費の適正な運営・管理体制の整備を図るため、「公的研究費の管理に関する規程(仮称)」を早急に制定する必要がある。

(2)総合研究センター

総合研究センターは、平成24年4月に、旧年度からの準備期間を経て、従来の音楽研究所、人文科学研究所、人間発達研究所を統合発展させて、部局横断的な学術的研究や研究の実践活動を目的とし設置された。

したがって、発足初年度ということもあり、センター規程の見直しや研究会の方法構築に取り組み、その運営はようやく軌道に乗った状況にある。主に以下のような諸事業を実施した。

①紀要編集

紀要である『研究論集』に関しては、従来の各研究所が出していた年報紀要類を吸収し、体裁を一新した。各学部から選出された本センターの運営委員による編集委員会が、編集規程や投稿基準をはじめ従来の方法を見直し、内容を充実させるべく、編集発行作業に従事した。全学的な協力を得て、第29巻を3月18日付で刊行。9本の論文と2本の研究報告を掲載できた。

②共同研究

研究プロジェクト「日本における諸学問の近代史(The modern

history of the studies in Japan)」をたちあげ、定期的に5回の研究会を開催した。概要をふくめ詳細な報告は『研究論集』の彙報欄に掲載。

また、各研究会の成果をふまえ、年度末の2月(19日～22日)には公開講座「学びの近代史」を開催した。地域のの方々や本学教員・学生の参加をみた。

本プロジェクトの特色は、多様な専門分野の知見を生かした学際性にある。このような幅広い学際的研究は、全学的な附置研究所である総合研究センターにおいてこそ可能な研究である。3年計画で進め、最終的には成果の公表を行う。

③その他

また、今後の研究体制構築に資するために、各部局(各学部・学科・研究所、また図書館・宗教部など)における学術的活動を把握し、一部それらに対する協力支援を行った。平成24年度は2件のプロジェクトを後援した。詳細は『研究論集』彙報欄に載せている。

相愛大学

本センターの存立意義を向上させるために、その諸活動について、全学的な理解と周知を図らなければならない。

相愛大学 吹上キャンパス 吹上キャンパスの校舎

■ 3. 社会貢献に関する事項

①社会貢献の基本方針

地域の知的拠点として、地域との文化、健康、社会に関する連携交流を通して学術的、文化的貢献を果たすことにより、地域社会の発展に寄与することを目的とし、存立基盤である地域社会との協力関係の再構築や地方自治体、産業界等との連携、そして大学間連携などを含めた新たな大学づくりをめざすとした事業計画を具現化するために、平成24年度に、新たに以下の機関と協定書を交わした。

- ・大阪市立大学医学部附属病院(大阪市阿倍野区)
- 「相愛大学と大阪市立大学医学部附属病院との相互連携に関する協定」(平成24年3月28日締結)
- 南港ポートタウンショッピングセンター出店者協議会(大阪市住之江区)
- ・「南港ポートタウンショッピングセンター出店者協議会との連携に関する協定」(平成24年8月1日締結)
- ・株式会社「徳」(大阪市住之江区)
- 「相愛大学と株式会社徳との連携に関する協定」(平成25年3月1日締結)

②連携事業等に基づく社会貢献の具体的な活動

地方公共団体、産業界等との連携を基に、芸術・文化の振興、専門的な研究成果の還元を図ると共に、地域社会のニーズに応じた様々な事業を展開した。

既に協定を締結し特に連携を密にしている公共団体や事業団等と実施した事業及び以下の通りである。

(※印は、新規の連携事業)

1)大阪市との包括連携協定に基づく事業

- ・「地域子育て家庭との連携事業」(住之江区生涯学習委員会との共催)
- ・公開講座「メタボダイエット教室」(9月～1月開催)
- ・「大阪ヘルスジャンボリー2012」(10月20日開催)
- ・「第20回住之江区みんなの健康展」(10月27日開催)

2)大阪府立急性期・総合医療センターとの相互連携に基づく事業

- ・緩和ケアに関するシンポジウム「生と死を今考える(第3回)」(10月20日開催)
- ・人間発達学部子ども発達学科学生の小児病棟への派遣(8月、9月)
- ・人間発達学部発達栄養学科による「糖尿病予防セミナー」(11月10日開催)
- ・糖尿病予防教室への協力(月1回開催)
- ・ふれあい病院探検隊(1月13日開催)

3)農林水産省産農政局大阪地域センターとの連携協定に基づく事業

- ・食育推進キャンペーン(2月9日開催)
- ・3・1・2弁当箱法講習会(2月25日開催)※

4)豊中市教育委員会との連携協定に基づく事業

- ・各小学校管内での親子料理教室(5月～3月)

5)大阪市立大学医学部附属病院との連携による事業

- ・音楽コンサート(計4回開催)※

相愛大学

相愛大学 吹上キャンパス 吹上キャンパスの校舎

6)南港ポートタウンショッピングセンター出店者協議会との連携協定に基づく事業

- ・音楽コンサート(計2回開催)※

7)株式会社「徳」との連携協定に基づく事業

- ・産学連携お弁当プロジェクト(約8カ月をかけてのプロジェクト)／3月4日から販売)※

8)大阪府との連携(協力)による事業

- ・みどりウォーキング・食と健康フェスタ(6月3日開催)※
- ・教職員自主研修支援「大学・専修学校等オープン講座」(大阪府教育センター)(8月2日開催)
- ・みどりの風ミニコンサート(8月25日開催)※
- ・第11回愛情お弁当コンテスト(7月～8月)
- ・食と防災を考えるシンポジウム「備えてまっか〜!まさかの時の食」(9月19日開催)※
- ・「『マジごはん by OSAKA』推進プロジェクトヤングリーダーフォーラム」(12月26日開催)
- ・正庁の閑一般公開一周年記念コンサート(1月15日開催)

相愛大学 吹上キャンパス 吹上キャンパスの校舎

9)地域の中・小・高等学校、団体との連携(協力)による事業

- ・第8回市民公開フォーラム(札幌農学校振興会関西支部との連携)(6月16日開催)
- ・大阪市立南港南中学校(生徒・教員・保護者)による演奏会見学(7月3日開催)
- ・「大阪中学生サマー・セミナー」(8月8・9日開催)
- ・「吹・相・楽への誘い」(9月～12月/12月16日特別演奏会開催)※
- ・御堂筋Kappoにて相愛大学ブース出展(10月14日開催)
- ・交野市立長宝寺小学校での演奏会(10月22日開催)※
- ・「さざびー音楽祭」(10月27日開催)
- ・「子育てと食育」セミナー(大阪ガスとの連携)(12月9日開催)
- ・JR西日本駅中コンビニお弁当開発プロジェクト(約5カ月をかけてのプロジェクト)(12月と1月に各2週間販売)※

10)森ノ宮医療大学との連携事業

- ・「おおさか食と運動健康フェスタ」(2月10日開催)

相愛大学

相愛大学 吹上キャンパス 吹上キャンパスの校舎

平成24年度から始めた連携事業を含め、事業の様子等は、ホームページや公式ブログ、各学部等のブログなどで紹介しているが、本学の学部・学科の設置目的や、相愛大学将来構想でも触れているように、どの事業も地域社会に寄与すべく実施されており、また、教育カリキュラムに盛り込まれた多様な授業の展開もなされているといえる。

相愛大学

相愛大学 吹上キャンパス 吹上キャンパスの校舎

③「相愛大学将来構想」に基づく事業計画の遂行
「相愛大学将来構想」の社会貢献に関する事項に挙げられている各項目については、年度計画予定に沿って実施されているが、計画書・報告書等の手続きが完了していないものも見受けられる。更なる改革を進める上でチェックを行い、確実なPDCAサイクルを実行させることが必要である。

相愛大学

相愛大学 吹上キャンパス 吹上キャンパスの校舎

地域貢献の活性化という視点からは、上記の連携事業に記す通り多くの事業を行ってきたが、今後も地域社会のニーズに応じた社会事業の展開を考えていくことが重要である。
ボランティア活動の推進においては、各学部独自で行う事業や学外機関との協力の下で行われる事業への学生ボランティアの参加が行われた他、全学的には「大阪マラソン」への学生派遣等も行っているが、更に学生支援センターとも連携を図りながら、日常的に参加できるような活動機会を増やしていきたいかならないと考える。

■ 4. 自己点検に関する事項

本学の自己点検・評価に関する実施事業は、主として機関別認証評価への対応、「相愛大学将来構想」実施に関する自己点検・評価および教育改善にかかるとともに、センター大別できる。
機関別認証評価への対応に関しては、本年度は特段の作業は行っていないが、1月17日開催の「相愛大学自己点検・評価委員会」において、次回機関別認証評価の受審について、評価機関の選定は未定であるが、受審時期は平成27年度が妥当であるとする旨の合意がなされ、今後の準備日程の概要が示されたところである。
『相愛大学将来構想』の実施については、これを本学のPDCAサイクルの基幹と位置付けている。本年度は同「実施管理一覧」に基づく、「実施すべき項目」に関する「検討・実施・評価・改善」各工程の内、特に前2点の進捗状況の点検・評価を、各項目の担当部署が提出する『実施計画書』に基づいて、12月の自己点検・評価実施委員会において実施し、その結果を自己点検・評価委員会に報告した。なお、この時点で未提出の『実施計画書』については本年度末に提出、次年度初頭に点検・評価を実施することとしている。

相愛大学

相愛大学 吹上キャンパス 吹上キャンパスの校舎

教育改善にかかる自己点検・評価活動では、FD委員会が平成23年度『(学生による授業評価アンケート)結果報告書』(全234頁)を刊行した。本書は、昨年度後期授業の大半についておこなった十数項目にわたる授業のアンケート結果とその分析および結果に関する教員各自の意見と改善方策をまとめたものである。本年度も引き続き、12月に学生による授業評価アンケートを後期授業について実施し、年度末にかけて、その結果の分析を委員会で行い、報告書を刊行することにした。なお、教員の教育力向上のためのFD活動の一環として、前年度に続き、教員相互の公開授業を実施した。参加教員数は必ずしも多くなかったが、有意義であったと判断している。

■ 5. 国際交流

教育の国際化を背景に、文部科学省の国際交流推進の方針、および本学の基本計画に基づき近年本学は積極的に国際交流を推し進めてきた。平成24年度もさらに推し進め、以下の事業を行った。

(1)提携大学の拡大

臺中教育大學(台湾)人文学院音楽学系、および長春大学光華学院(中国)と交流協定を締結した。
7月には臺中教育大学の弦楽アンサンブル、総勢20数人が相愛大学を訪問し、相愛大学南港ホールでの公演や相愛ウインドアンサンブルの定期公演などを鑑賞し、両校の友好を深めた。
また、平成24年10月より児嶋一江教授と黒坂俊昭教授がドイツのフライブルク音楽大学に、相愛大学との提携に向けての協議のため訪問した。

(2)教員の国際交流

●**人文学部**：中国遼寧大学外国語学院より、貝蕾氏を准教授として受け入れ、研究報告会を開催した。

●音楽学部：

- ①平成24年5月20日～28日までイタリアより声楽のシルヴァー・マンガ教授を迎え集中レッスンと公開講座を行った。1回生～4回生の声楽専攻生が受講し多くの成果を上げた。

相愛大学 吹上キャンパス 吹上キャンパスの校舎

- ②平成24年5月7日～25日までショパン音楽大学ピアノ科、カジミエーシェ・ギェルジョード元教授による特別レッスンと公開講座が行われた。1回生～4回生のピアノ専攻生が受講し多くの成果を上げた。

相愛大学 吹上キャンパス 吹上キャンパスの校舎

- ③平成24年8月15日～18日までフライブルク音楽大学のクリフトフ・ヘンケル教授を招き、相愛オーケストラ浜松合宿での指導と、19日びわ湖ホールでの相愛オーケストラ特別公演のリストとしてハイدن作曲チェロ協奏曲を独奏して頂いた。チェロ専攻生は勿論のことオーケストラ団員にとっても、ヘンケル教授の指導により多くを学ぶことができた。
なお、児嶋一江教授はフライブルク大学のチェロのヘンケル教授と共に同大学ホールにて「プラームスの夕べを」開催し300人を超える聴衆から喝采をうけた。

相愛大学

相愛大学 吹上キャンパス 吹上キャンパスの校舎

(3)学生の国際交流
●**人文学部**：ハフイ大学夏季英語研修に5人の学生を派遣した。語学のレッスンに加え、現地学生と交流し、国際感覚を培った。

相愛大学

相愛大学 吹上キャンパス 吹上キャンパスの校舎

●**音楽学部**：平成24年8月7～22日、ポーランドのショパン音楽院にて、7人の参加により夏季講習が行われた。講習会ではショパン音楽大学ピアノ科、カジミエーシェ・ギェルジョード元教授の個人レッスンや公開講座をはじめ、ショパン音楽院の教授の方々から音楽性、技術、表現力など多くを吸収した。今年度は相愛オーケストラ合宿と日程が重なったため管弦打学生の参加が少なかった。

今後はさらにショパン音楽院での講習会と相愛オーケストラ合宿、指揮者日程などを調整し多くの学生が参加できるようにする。

(4)留学生の受け入れ

人文学部では留学生を募集し、現地で試験を行い、留学生を受け入れた。内訳は、3年次編入生39人、派遣生47人である。なお、9人の留学生在が留学生特別入学試験に合格し(文化交流学科8人、日本文化学科1人)、入学した。

相愛大学

相愛大学 吹上キャンパス 吹上キャンパスの校舎

国際交流については、本年度も新たに2大学と交流を提携したように、教員、学生ともに、質量ともに年々充実してきている。さらに発展させる必要がある。なかでも、受け入れについては充実させているが、交流というからには、送り出すほうも充実を図らなければならない。学生の意欲を掻き立て、海外への短期、長期の留学をうながす必要がある。そのためにとどのような措置を取るべきか検討を始めた。

■ 6. キャリア支援・就職支援

(1)キャリア支援

入学時の基礎学力と社会人基礎力を把握し、今後の教育に生かすために、新入生に基礎学力テストと社会人キャリア育成アセスメントを実施、入学者260人中258人が受験(受験率99%)した。試験結果については、各学部・学科の就職委員を通じて学生に返却するとともに、教員への情報提供も図った。

この結果を受け、各学部・学科の特色を活かした社会人基礎力を強化するとともに、特に基礎学力強化は、共通教育センター学修支援室と具体的な対応や情報交換を含め連携を図った。

また、昨年度入学生についての社会人基礎力の伸び幅を検証するために、9月に2回生対象の社会人基礎力育成アセスメントを実施し、在籍270人中233人が受験(受験率86%)した。検定結果を受け、NPO社会人キャリア力推進協会による報告等を詳細に検討した結果、本学学生は、規律性・状況把握力・柔軟性・傾聴力の点では良い評価であったが、計算力・時事問題・日本語力の強化が特に必要と分かった。また、1回生受験時よりも2回生受験時に規律性が若干低下していることも問題として浮上してきた。

相愛大学将来構想の課題である「教職員による能動的キャリア支援の確立」のため、10月19日(金)に、教職員キャリア研修会「就職指導におけるスキル」を実施し、55人の教職員が出席した。キャリア救急センターの片岡佑之先生より、指導における成功例・失敗例を交えた具体的な説明があり、今後に向けて、教職員がキャリア支援・就職支援に役立つ内容であった。前述の2回生のアセスメント結果を研修当日に報告し、授業内・外のキャリア教育・キャリア支援に活用いただけるよう学科との連携調整を行った。

(2)就職支援

3・4回生の就職行事については、従前通り自己分析・業界研究・筆記試験対策・面接対策を4つの柱として実施した。行事に積極的に参加させるためにポータルサイトを利用して、全教職員に向けての就職支援行事案内・出席者数の結果を配信するなど、教職員が連携しての授業内・外での喚起・呼びかけを行った。実践練習では、グループ面接模擬練習やグループディスカッション模擬練習を積極的に行った。特に重視したのは個別指導であり、履歴書・エントリーシート添削や面接練習・個人相談を年間を通じて面倒見の良い就職支援を行った。

(3)企業の開拓

今年度もこれまでの内定先を中心に、内定お礼、次年度求人のお願いを兼ねて訪問を行った。就職希望者には、就職サイトのみのも活動ではなく、内定実績企業に、積極的に受験するよう斡旋した。就職状況については、求人件数は、1739件(昨年度1594件)で145件増加となった。業種別には多い順に医療・福祉35.7%、卸売・小売17.3%、教育・学習支援15.9%の順番であった。平成25年5月1日現在の就職決定率は、就職希望者の89.8% (昨年度87.8%)であり、昨年よりも2%増であった。求人件数・就職決定率も増加の傾向にあるが、就職希望で登録しながら就職活動せずに卒業する者が増えている。次年度以降は、一人でも多くの学生が就職活動を行うように、就職活動率を高めるための就職支援・就職指導を行っていく。就職活動を活発にさせるためには、行事の参加率が大事であるが、今年度より行事によってかなり出席率が悪かった。次年度以降は、就職活動を行う上で必須な行事については全学体制で行い、各学科の特色を活かした行事については、学生支援センターと学科が共同で行事を実施し、出席率を高め、職業意識・就職意欲を高めていく。

■ 7. 学生支援に関する事項

(1) 課外教育活動

①ボランティア活動

平成24年度相愛大学教育改革経費事業に採択された「学生によるボランティア組織の活動」について、検討会議・研修及び体験を行った。また同活動に精通している釈徹宗教授に助言を仰ぎ、方向性などを模索し、次年度の活動は、全学的に展開を広げる。

②リーダーズキャンプ

夏期リーダーズキャンプを9月3日から2泊3日で「しあわせの村」(神戸市)で学生45人、教職員9人が参加し実施した。「相愛大学を活性化させるために」のテーマで議論し、積極的に挨拶しようという目標を掲げ、後期の活動に繋げることとなった。また春期は、3月4日～6日学内で学生53人、教職員11人が参加した。「リーダー1年生」と題し、学生会組織や上部団体の役割の把握、各団体の役員の業務内容を知り、リーダーとしての知識を研鑽し、リーダー像について話し合った。

(2)学生自治活動

資金管理を万全にするために、クラブ顧問教員が会計監査をした。今後は、顧問の業務を明確化し、クラブ顧問会議の設置なども検討した。

(3)学生表彰

学長賞1団体、学長奨励賞2人、学生部長賞4人、本願寺賞6人を選出した。しかし、各学部学科からの選出について、社会的・客観的資料の不足や、GPAの導入により平成26年度に出揃う客観的数値を判断材料に成績優秀者を対象とするなど、推薦方法や選考基準を見直す。

(4)福利厚生

①奨学金制度

日本学生支援機構奨学金579人をはじめ貸与型594人、給付型の27人、計621人(全体1289人の48.2％ 昨年比1％減)が利用している。また、4回生進級時に4年での卒業見込みなく奨学金の継続が取り消され、勉学意欲はあるが経済的理由による退学やむなくする学生がいることなど、今後の課題となっている。

②学生食堂

かねてより在学生・オープンキャンパス来校生等から不満の多かった学生食堂を改善するために業者の入札を行い、9月14日にリニューアルオープンした。一人でも気軽に利用できるようカウンター席を設置し、モーニングサービスやドリンクバーも新設した。営業時間は平日8:45～17:00、土曜8:45～15:00とし、部活やサークルの練習などにも配慮した。

(5)建学の精神の具現化

定例礼拝(3回)をはじめ、仏生会、報恩講、成道会、修正会等を南港講堂において音楽法要で勤修した。また、定例礼拝等で行われた法話や講演を「法輪24号」としてまとめ出版した。毎週木曜日には礼拝室礼拝を、新入生本山参拝、卒業生別院参拝、拜敬式、成人の集いも実施。地域の方々にも浄土真宗の教えを広めるため市民仏教講座を月1回土曜日に年8回開催した。また、宗教部所属の聖歌隊は、仏教讃歌を中心にしたコンサート活動を行った。なお、定例礼拝などへの学生の参加が低迷している実情を踏まえ、学生の参加を促進する施策を検討する。

(6)学生相談・健康管理

保健管理センターとして月1回カンファレンスを開催し、学生相談室・保健室及び学生支援センター間での情報共有や連携の図り方の確認などを行った。また、精神科医と連携し、「こころのクリニック 和ーなごみー」の紹介やワークショップを実施した。学生相談室の年間入室者は139人の(べ352人)、新規入室者も39人であった。保健室では、校医が直接学生や教職員の不安や悩みに応える「健康相談日」を年8回実施。状況は学生956人、教職員41人、計997人であった。

(7)学生生活実態調査実施

11月中旬に学生生活実態調査(設問33、総質問数100)を学生全員に配布(マークシート、自由記述あり)。12月に1098部を回収(回収率86.2%)、集計結果をベースに専門教員を中心に速やかに分析・検討し、執行部会議で報告し、9月末までに纏める。

■ 8. 図書に関する事項

①教育・研究支援機能の整備

本学図書館は、学習図書館機能を重視し、学生の自立した学習活動を支援する図書館運営を行っている。平成24年度も基本的な図書館利用ガイダンスからデータベースを利用した文献検索法の紹介など、各種説明会及び講習会を実施した。また授業の一環として図書館での文献調査演習が行われ、それらに呼応して、OPACの利用法や、データベースを利用した文献検索法を紹介するなど図書館利用教育に努めた。

一方、研究者の学術情報へのニーズにも応え、研究図書館としての機能を充実させるため国内外の学術情報を迅速かつ的確に提供できるように努めた。さらに、研究者に対する支援のひとつとして、国立情報学研究所が提供するリポジトリシステム環境を利用して、平成24年度の事業計画通り紀要論文などの学術研究成果の公開を開始した。

②図書館資料の整備・充実

本学図書館は、学習図書館としての機能を重視し、学習用図書の選書に努めるとともに、新学科である、音楽マネジメント学科、仏教文化学科、文化交流学科の関連分野資料を重点的に収集した。

また、飛鳥寛業様よりご寄贈頂いた「仏教音楽コレクション・A」の

資料点検を継続して行っているところであり、平成25年6月から順次公開を行う予定である。

③電子図書館機能の強化

電子図書館の中心的なサービスとして期待される所蔵資料のデジタル化は、著作権のクリアも含め大量デジタル資料作成の労力と費用が進捗の障害となっている。デジタル化された資料の購入も検討していたが、今年度は実施に至らなかった。一方、著作権問題がクリアされた研究紀要等の学内出版物については、デジタル化し公開することができた。

さらに、貴重資料「春暉文庫」については、国文学資料館との連携によって、デジタル化事業を開始し、平成24年度は、既にマイクロフィルム化していた96点の資料がデジタル化され、公開に付される予定である。今年度以降も引き続き撮影を行っていくことになる。

相愛大学は、教育改革に積極的に取り組んでいるが、大学図書館は「自ら意欲的に勉学に取り組む場」として、大学教育が求めているところの、自学自習の施設・機関としての要請に積極的に応える責務がある。

さらに、現在の大学教育が、知識の習得のみに偏重せず、問題解決能力の養成や、プレゼンテーション、討論など多様な学習形態が重視されるようになっていることにも対応していくことが、今後の課題である。

■ 9. 学生募集に関する事項

平成23(平成24年度入試)年度非常に厳しい状況であった結果を踏まえ、平成25年度学生募集では、年度当初に立てた計画に従い、改革、改善を行った結果、大学全体で若干ではあるが志願者数・入学者数の改善が見られた。しかしながら定員充足にはまだ至らない状況であり、今後も改革、改善を行う。

①入試制度に関しては、平成24年度より実施した人文学部、人間発達学部重点指定校(特別奨学生)入試の受験生が募集人員の8割以上あり、また、人文学部での留学生特別入試も多くの受験生があり、制度が認知され効果があった。しかし、他の導入間もない入試制度(沙羅の木会特別推薦、寺院特別推薦)に関しては、受験生が伸びずさらに認知に努める必要がある。また、入試制度については複雑多様化してきており、次年度入試に向け実施及び出題の体制について組織の整備・見直しを行う。

②学生募集結果について、志願者数は、音楽学部138人(対前年比101%)、人文学部87人(対前年比150%)、人間発達学部196人(対前年比112%)、音楽専攻科14人(対前年比82%)、入学者数は音楽学部105人(対前年比103%)、人文学部65人(対前年比155%)、人間発達学部136人(対前年比117%)、音楽専攻科10人(対前年比71%)であった。

志願者数、入学者数ともに音楽専攻科を除き全て増員となり3年ぶりに入学者数が300人を超えた。人文学部は3学科を改編し1学科としたが、合計で306人となり昨年の入学者を上回ることとなった。入学志願者募集活動について、高校訪問、高校での模擬授業・学校説明会・分野別説明会を昨年以上に積極的に参加し、高校訪問数約970校(対前年比129%) 模擬授業・説明会約370回(対前年比112%)の実施であった。広報媒体については昨年度より紙媒体(進学情報誌・受験雑誌等)にWeb媒体(進学検索サイト等)を追加し資料請求数7790件(対前年比118%)と増加した。

高校や生徒への直接のアプローチ、媒体広報により、オープンキャンパスは7回実施で、参加者合計777人(対前年比128%)、この参加者増が志願者・入学者増につながったと言える。しかし、まだ十分認知されたとは言えず、オープンキャンパスにおいて「相愛大学の魅力」を伝えるためにも新たな宣伝広報ツールや活動への取り組みも必要である。

■ 10. キャンパス整備

(1)キャンパス等充実に関する事項

平成24年度における南港学舎の施設改善計画は当初計画していた内容を一部見直し、今年度中に対応が必要なものだけに限り実施した。また、文部科学省及び私学事業団の補助金を絡めた施設等の環境整備を下記のとおり行った。

- ①南港学舎施設整備
 - ・講堂棟1階トイレ改修
 - ・7号館エレベーター改修
 - ・講堂音響設備改修
 - ・講堂パイプライン改修
- ②文部科学省の補助金を活用した施設環境整備事業
 - ・図書館1階ALPSに係る事業

- ・社会人基礎力と学力を兼ね備えた人材へ育成することを目的とした支援型学修施設(詳細は後述する) (補助金獲得12,530千円)
- ・5号館202教室　PCリプレイス等
 - ・能動的学修意欲向上・キャリア形成支援教育の実現に向けた環境整備事業(詳細は後述する)(補助金獲得5,261千円)

本町学舎は、建築物及び設備機器の老朽化が激しく、通常の使用レベルを維持することに重点をおいた。新しく機能を追加した工事等は行っていない。平成24年度の主な工事は、以下の通りである。

- ③本町学舎施設整備
 - ・空調機交換(体育教育室・B30・B31・B35・B54・B55教室　空調機交換)
 - ・調理実習室給湯器交換
 - ・B棟エレベーター部品交換
 - ・E棟雨漏り修繕　他

(2)情報環境の整備充実

相愛大学将来構想における、ネットワーク環境の改善・構築計画として挙げられている4項目について、以下のように整備・調整を行った。

①本町学舎の校舎新設に伴う、南港学舎との同一ネットワークの構築

平成24年5月に完了した学園内基幹ネットワーク再構築により、南港学舎と本町学舎(大学と高等学校・中学校)との連携が可能となり、学園全体として包括的なネットワークが整備された。この整備にあわせてネットワーク監視体制も強化され、南港学舎において本町学舎のネットワークの状態が、あるいはその逆も確認できるようになり、突発的な障害発生時における原因の特定・対応も容易となった。

②本町学舎へのPC教室の増設、インターネット環境の実現

平成24年4月より本町学舎に設置されたWindows 専用とMacintosh専用の2PC教室が、音楽マネジメント学科におけるIT教育、音楽制作教育の授業および公開講座等で活用されている。音楽マネジメント学科は開設2年目であるため、同学科2回生の授業のみの運用であったが、次年度以降はさらに専門性の高い授業が開講されることになり、それらにも対応するべく、学科との連絡を密にしていくことによって引き続き問題点・改善点を検証し、調整していくこととする。

③無線LAN対応機器増加への環境対応

本町学舎の大学棟内全域、南港学舎の学生厚生館に無線LANアクセスポイントが設置されたことにより、学生はスマートフォンやタブレット端末を利用してスムーズにインターネットにアクセスすることが可能となっている(平成24年6月)が、平成24年度に採択された私立大学教育研究活性化設備整備事業にあわせて運用しているSoai SLEP-UP ドリル(基礎学力向上及び就職適性検査SPI対策用e-Learningソフト)についても利用しやすい環境を整備することができたとと言える。

④ネットワーク環境の高速化への対応

基幹ネットワークの再構築に伴い、平成24年度よりNAP(Network Access Protection)機能を導入したことで、教職員が場所やクライアントPCを選ぶことなく、有線LANにより基幹ネットワークにログインすることが可能となり、人事異動等に伴って行ってきた、クライアントPCの再設定の必要がなくなった。

また、南港学舎と本町学舎をつなぐ学内専用光回線をより高速なものに切り替えたことで、大量のデータのやり取りもスムーズになり、業務の効率化にも成功した。

上記4項目以外のものとして、文部科学省の平成24年度ICT活用推進事業にて、「能動的学修意欲向上・キャリア形成支援教育の実現に向けた環境整備事業」が採択されたことを受け、ラーニング・コマズの整備として、南港学舎5号館202教室のノートPC、無線機器及びドメインサーバのリプレイスを行った。また、カリキュラムと連動したキャリア形成支援環境の整備として、6号館4階講義教室へのLAN整備を行う他、社会人基礎力の実践環境の整備として、学生が主体的に活動を行うための施設等へのLAN整備及び無線環境整備を行った。また、文部科学省の平成24年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業にて採択された「相愛大学教育改革基地『ALPS』(Active Learning Plaza of Soai University)」の整備を実施し、これまで「読書室」として利用していた図書館1階を改装し、社会人基礎力と学力を兼ね備えた人材へ育成することを目的とした支援型学修施設を整備した。

ALPSには

- CAL(Computer-Assisted Learning)Space「キヤル・スペース(コンピュータを利用した学修スペース)
- AIC(Activity of Imagination and Creation)Space「アイク・スペース(想像力と創造力を駆使するグループディスカッションが可能な活動スペース)
- 学修支援スペース(国語・数学・英語・理科・社会といった基礎教科に関すること、レポートの添削、SPI対策、学生生活へのアドバイス)
- GrEn(Green-Recreation&Relaxation-Enjoy)Deck「グリーンデッキ(緑に包まれた憩いとおしみのデッキ)」、以上4つのスペースを整備した。

平成25年度は、本学の財政状況を視野に入つつ教育環境の整備を図るために「キャンパス整備検討委員会」を立ち上げる予定である。

■ 11. 広報活動

平成23年度に引き続き、全学的な広報活動の情報集約と広報活動の検討機関として存する「相愛学園広報委員会」を基軸として、学内基盤の整備及び各種広報活動の改善を行った。学内基盤整備の一環として、まず「相愛学園広報委員会」において、すべての学内広報活動の把握を行うために、本学構成員が関連するすべての活動等の報告を義務化し、委員会における合理的・戦略的広報活動の企画・立案を行うための基本情報の共有化を図った。

また、多大な支出を要する各種広報活動の改善策として、より効果的かつ効果的な活動を行うために、広報戦略マップに即した事業展開、本学がターゲットとする学生募集戦略に基づいた広告デザインの企画とポスターなどの広告を掲示する駅の選定、そして社会(特に若年層)のニーズに即応したデジタルサイネージ媒体・Web媒体の充実に着手した。

特に大学においては、平成24年度は、「相愛大学将来構想」に基づく事業改革の熟成を図るべき重要な年であったが、中・小規模大学に位置づけられる本学の特徴である少人数教育をカバーしつつ、さらに個性に溢れ魅力ある大学としてのブランドイメージの確立と、社会からの信頼性を向上させるための広報活動の有効性を検討し、主に以下の取り組みを行った。

次年度においては、担当部署のみならず全学的に広報マインド及びそのスキルの向上を目的に広報セミナー等を計画的に行うことで、相愛学園広報委員会を中心とした全学的協力体制をもって新たな広報活動の展開をめざすこととしたい。

- ①メディアを通した積極的な情報の発信

社会的に影響力の大きい報道機関との協力関係を強化していくことは本学のブランドイメージの向上と社会に求められる大学をめざす上で極めて重要な取り組みと考え、報道機関・大手企業・本学関連団体との協力イベント事業を広報担当部署が主体的に企画し、実施することで前年度より各機関・担当者との接点を深めることができた。「五輪みどり(本学客員教授)デビュー30周年特別プロジェクト関西公演」もその一例で、関西はもろろんのこ全国レベルでの新聞による記事掲載とテレビ等のメディアによる露出を大幅に増加させることができた。

- ②広報誌等の発行

学園広報誌『SOAI Familiar』を、年3回(「新入生歓迎号(4月1日発行)」、「第21号(5月7日発行)」、「第22号(12月15日発行)」)作成した。本誌がその目的の一つとして学内構成員の方向性と協調性を維持、発展させる媒体としての役割を担っていることを再認識した上で誌面のニューアール化に取り組み、「研究リポート特集」、「メディアで活躍する教授陣」、各学部の重要な事項に関する「聞くシリーズ」など、新たな記事内容を盛り込んだ。

また、第21号・第22号の冊子体として発行するものはこれまで、在学生・保護者・教職員・全同窓会員・全国浄土真宗本願寺派寺院・相愛学園関係企業等を対象に約52,000部を印刷し、その都度配布・発送すると共に、進学相談会等のイベントや学校訪問等においても配布するなど学生・生徒募集のために有効活用を行ってきたが、発送に関して多大な支出を要してきた。そこで、発行ごとに行ってきた全同窓会員への発送を、年1回(5月発行時のみ)とした上で前号(12月発行分)を同封することにした。これにより、全同窓会員への発送事業を縮小することなく、費用を大幅に削減することができた。

また、本誌の発行はこれまで「相愛学園広報誌編集委員会」が行ってきたが、平成24年度より「相愛学園広報委員会」の設置により同委員会が行うこととなり、学内外からの情報収集能力が格段に向上し、効率性が飛躍的に改善された。
- ③広告の掲出

前年度までは、大阪市営地下鉄主要駅(梅田駅・なんば駅・心斎橋駅・天王寺駅など7駅)を中心にした駅貼り広告及びJ・R沿線の

車内吊り広告を利用して、学内の各種イベント・公開講座・コンサート等の広告掲出を、年間を通じて行い、交通機関を利用する幅広い層へ、学内情報の提供を行ってきた。

しかし、本年度からは駅貼り広告掲出駅の見直しを行い、主要駅だけでなくオープンキャンパスを含む学生・生徒募集活動等の告知広告の掲載を考慮し、そのターゲットとなる地域の通学駅及びそのハブ駅への掲出を行った。

また、駅貼り広告等のアナログ媒体だけでなく視覚的效果をさらに求めて京阪神域にわたるデジタルサイネージ媒体の利用拡大に着手した。

そして、広告デザインに関してもブランドイメージを維持しつつ、社会的流行を大胆に取り入れ若年層のニーズに即応したものとした。

- ④広報活動としての他機関との協力イベント開催

浄土真宗本願寺派本願寺津村別院との連携事業のひとつとして実施している「北御堂コンサート」(月1回開催)は、参拝者並びにビジネスマンを中心とした来場者から好評を得て本学学生の特色ある活動をアピールすることができた。

また、本学園が所在する大阪市の中心地である御堂筋の活性化を目的として設立されている、「御堂筋まちづくりネットワーク」のイベントである「スプリングギャラリー」「オタムギャラリー」の企画・運営に携わり、その一環として実施されている彫刻清掃・プランター剪定などのボランティア活動への職員派遣や本学園広報担当部署が主催して「まちかどコンサート」等を実施した。

これにより、大学の重要な役割である地域貢献の一端を担うとともに、ブランドイメージの向上につながった。

●高等学校・中学校

■ 1. 高等学校・中学校

平成24年度相愛高等学校・中学校における教育活動に関する主な取り組みについて報告する。

- (1)学力向上
 - ①漢字検定対策の強化

本校では年3回実施してきたが、希望者の受験にとどまっていた。今年度は中学・高校全クラス(高校音楽科は希望者受験)が年3回受験をした。授業や終礼テストで受験対策を行い受験への意識を高めた。
 - ②英語検定対策の強化

本年度は漢字検定同様、中学・高校全クラス(高校音楽科は希望者受験)が年3回を受験し、高校卒業までの2級合格をめざした。
 - ③模擬試験対策の強化

模擬試験の年間受験回数・受験科目数を増やし実力をつける対策を行った。模擬試験前には過去問題を多く解くなどの模試対策授業を行った。
 - ④定期考査対策の強化

定期考査の2〜3日前から考査実施科目のみの特別時間割を組み、試験範囲の総復習を行い基礎学力の定着を図った。
 - ⑤授業時間数の確保

1学期の終業式後(7月21〜26日)に授業を行い、学力向上につなげた。

- (2)部活動の活性化

本校の強化クラブとして、新体操部、バレーボール部、体操部、吹奏楽部が挙げられる。新体操部は春の全国の選抜大会出場、体操部は国体出場・インターハイ出場、中学バレーボール部は中学校で初めての近畿大会出場を果たし成果を出している。吹奏楽部は大阪の大きなイベントの演奏依頼が多く、実績とともに高い評価を得ている。

- (3)入試広報

広報ツールを整備して、中学校・学習塾・校外の各種説明会・相談会に向向いて広報活動を増やした。また、高校1年生による母校訪問を実施し出身中学校との連携を図った。

- (4)教職員研修

スクールカウンセラーによるカウンセリング研修会、ハラメント研修会、建学の精神についての宗教研修会、広報活動に関する研修会等を実施し、問題解決や意識改革を行った。

(5) 大学、他校との提携、連携

併設校である相愛大学、宗門校である各大学並びに教育連携協定を結んでいる龍谷大学との提携、連携を維持、強化した。平成22年度から実施されている高校生による1日見学体験を相愛大学、龍谷大学と行っているが、本年度は女子大への進学希望者が多い現状を踏まえ、京都女子大学への見学を実施した。

(6) 音楽教育

本学園の根幹とも言える音楽の専門教育に関しては、国内外を問わず評価できる。校内の演奏会に向けての活動やコンクール出場への意識を高め、活躍の場を広げた。

平成24年度は漢検・英検・模試・定期考査の4つの対策を柱とした学力向上を重点的に行った。

これらの対策を強化することにより一定の成果は得られたが、より成果を上げるためには生徒の向上心(意識の向上)についても同時に検討することが必要であった。

次年度はその点を踏まえ、進路指導部とキャリア教育推進部とが連携し、将来目標を持たせることによって、日々の学習意欲につなげ、学力向上への意識を高める実践を行う。

これからの対策を強化することにより一定の成果は得られたが、より成果を上げるためには生徒の向上心(意識の向上)についても同時に検討することが必要であった。

● 音楽教室

■ 1. 音楽教室

相愛音楽教室は昭和30年10月に設置され「優れた音楽家を育てるには早期より豊かな音楽教育が必要である。」とのコンセプトに基づき運営を続けてきた。

教室の入室者は懸命の努力を行うも、最近の少子化とクラシック離れの影響もあり年々減少を続けてきた。

平成24年5入室者106人(前年比3人減)となり過去最低まで落ち込む結果となった。

特に小学3年生以下の減少が7人と大きなことから平成25年度からは従来の授業時間130分から90分に縮め、かつオーケストラとの演奏時間も短縮し、無理なく学べる環境を整えることとした。

一方、入試関係においては平成25年度新入生として相愛音楽教室から相愛大学、相愛高等学校に送り出す生徒は各2人であった。次年度は、大学、高等学校との連携をさらに密にし、音楽教室→中高一→大学といった一貫教育における責務を果たしていく。

経営面においては収入の大部分を占める生徒数の減少により引き続き厳しい状況にある。各種の費用削減に取り組んできたが、十分なる改善とはいかず、入室者数の減少に見合う非常勤講師数の削減にも取り組み改善を図っていく。

III. 財務の概要

■ 1. 財務の概要

平成24年度決算が、平成25年5月30日(木)の理事会・評議員会において承認された。

資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表について報告する。これらの計算書は、「学校法人会計基準」に定められた計算書であるが同会計基準による様式は補助金交付の観点からの表示区分となっているため、一般的に知られている企業会計の計算書とは異なる点も多くある。

今年度の決算において重要な会計方針の変更等による表示方法の変更があった。その内容として、音楽教室等に係る収支を従来純額により収益事業収入に計上していたが、当年度より総額による表示に変更し補助活動収入と本部の各経費に計上することになった。なお今年度に計上した音楽教室等に係る収支は、補助活動収入29,859千円、人件費支出28,523千円、管理経費支出5,540千円である。

(1)「資金収支計算書」は当該年度の研究等の諸活動に係るすべての収支内容、並びに支払資金(現金・預貯金)の収支の順末を明らかにする目的の計算書である。お金の動きをすべて網羅した計算書(いわゆる、キャッシュフロー)であるため、収入には前受金収入、奨学貸付金回収収入等が含まれ、支出では借入金返

済支出、資産運用支出等が含まれる。

① 収入の部

学生生徒等納付金収入の決算額は20億7,215万円と前年比約2億200万円の減少となった。手数料収入は入学検定料収入及び試験料収入があり、19,815千円となった。寄附金収入は本町学舎1号館竣工による特別寄附金及び保護者会等からの一般寄附金である。

補助金収入は、私立大学等経常費補助金、私立大学教育研究活性化設備整備事業補助金(ALPS・相愛大学教育改革基地(Active Learning Plaza of Soai University))、ICT推進事業(能動的学修意欲向上・キャリア形成支援教育の実現に向けた環境整備事業等)補助金などの国庫補助金収入及び地方公共団体補助金収入の補助金収入が4億42,318千円となり44,111千円の増加となった。資産運用収入では銀行等の預貯金利息と本校舎の貸教室料2,035千円となった。

資産売却収入はグランドピアノ1台の売却による220千円である。

事業収入は先にも述べたように、本年度より音楽教室等の収入を補助活動収入として総額29,859千円計上した。不動産賃貸等による収益事業収入97,448千円と合わせて1億27,307千円となった。雑収入はその大部分を締める退職金財団交付金収入1億45,103千円となり、今年度は退職者の増加により前年比75,827千円の増加となった。

② 支出の部

人件費支出は退職金を除く人件費が17億8,770千円となり前年比1億30,197千円の減少となった。

また、今年度より音楽教室、購買部の教職員の人件費を含めた処理となっている。

教育研究経費は6億62,906千円となり前年比59,420千円の減少となった。管理経費は1億49,458千円となり24,222千円の減少となった。管理経費でも音楽教室等の費用が含まれている。

借入金等返済支出は龍谷学事振興金庫への返済金27,000千円。施設関係支出はALPS(相愛大学教育改革基地(Active Learning Plaza of Soai University))の整備、講堂棟1階トイレ改修、ICT推進事業(能動的学修意欲向上・キャリア形成支援教育の実現に向けた環境整備事業等)で18,596千円となった。

建設仮勘定費用には、南港学舎のピトーブ工事費を計上している。

設備関係支出には教育研究用機器備品と図書を購入費1億7,977千円が含まれている。

資産運用支出3億7,825千円のうち3億円は教育充実特定預金であり、運用銀行変更による再預入分、残りの7,825千円は各引当資産への繰入支出である。

その他の支出の大部分は前年度未払金の本町1号館等の(株)竹中工務店への支払い4億305千円である。また、奨学貸付金として6,000千円、大学生10人への貸付を行った。

資金支出調整勘定では、期末の未払金となった退職金及び所定福利費等、ICT推進事業経費が含まれる。

結果、前年度よりの繰越した資金が15億8,238万8千円、次年度への繰越資金が9億6,444万3千円と6億1,794万5千円の減少となった。

(2)「消費収支計算書」は当該会計年度における消費収支の均衡状態と内容を明確にし、学校法人の経営状況が健全であるかどうかをみる、いわば企業会計の損益計算書に当たるものである。

この計算書には「帰属収入」および「基本金組入額」という学校法人会計特有の科目がある。

「帰属収入」とは学生生徒等納付金や手数料、寄附金、補助金等の収入のことで、学校法人の活動による収入を意味し、借入金等収入や前受金収入のような負債となる収入は除かれる。「基本金組入額」とは、「学校法人が教育研究活動を行ううえで欠かせない必須の諸資産を、永続的に保持するため、その資産に相当する額を帰属収入の中から基本金として維持するよう組み入れたもの」と規定(学校法人会計基準第29条)されている。

① 収入の部

学生生徒等納付金及び手数料は、資金収支計算書と同様に前年比で減少となった。寄附金は備品等の現物寄附で岡崎真雄様からご寄贈いただいたグランドピアノ(ブリュートナー)評価額30,000千円、図書購入等に係る組入れ1,244万8千円、音楽教室等に係る固定資産1,940千円があった。

帰属収入合計が28億90,960千円となり前年比22,479千円減少となった。本年度の基本金組入高は2億7,929万3千円となり、主に南港ネットワークサーバー、グランドピアノ(ブリュートナー)、ALPS(相愛大学教育改革基地)等である。

結果、消費収入の部の合計は、26億11,667千円となる。

② 支出の部

人件費は、教職員人件費及び退職給与引当金繰入額等で19億75,351千円となり前年比で39,626千円減少となった。教育研究経費は前年比で33,306千円減少、管理経費は前年比25,384千円減少となった。

その結果、消費支出合計は32億27,643千円となり、当年度の消費支出超過額は6億15,976千円となった。

また、翌年度繰越消費支出超過額は、96億4,808千円となり当年度の帰属収支差額はマイナス3億36,682千円で帰属収支差額比率は、マイナス11.6%となった。

学園は収支均衡を大原則とし、言い尽くされてきたことではあるが、収支均衡のためにも、収入増加、経費削減の実施につきところである。

(3)「貸借対照表」は年度末の財政状態を表し、当年度末と前年度末の額の対比で変動を確認し、資産、負債、正味財産(基本金、消費収支差額等)別に計上している。

資産の減少は、減価償却と資産の除却損、現預金等の減少によるものである。

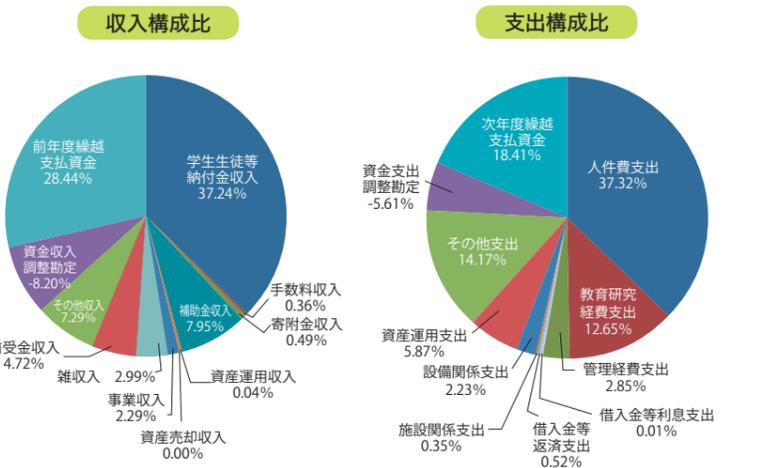
負債においては、借入金が長・短期合計で3億46,000千円である。結果、消費収支差額の部合計は翌年度繰越消費支出超過額96億4,808千円となった。これは拡充計画が始まって以来の傾向で、ひとえに資金不足の状況を表している。

学校法人は多額の消費収入超過額を目的とするものではない、とはいえ財務の安全性を確保し、収支均衡のためにも資金の積上げが不可欠な状況にある。

平成24年度決算

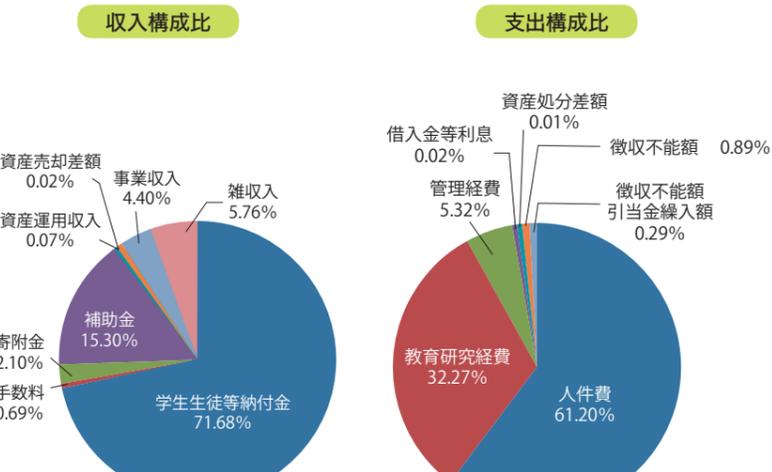
(1) 資金収支計算書 2012(平成24)年4月1日～2013(平成25)年3月31日まで (単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
収入の部			
学生生徒等納付金収入	2,010,932,000	2,072,150,233	△ 61,218,233
手数料収入	19,433,000	19,815,920	△ 382,920
寄附金収入	28,806,000	27,287,632	1,518,368
補助金収入	441,861,000	442,318,959	△ 457,959
資産運用収入	7,043,000	2,035,281	5,007,719
資産売却収入	220,000	220,000	0
事業収入	95,898,000	127,307,730	△ 31,409,730
雑収入	168,176,000	166,420,514	1,755,486
前受金収入	355,440,000	262,837,500	92,602,500
その他収入	395,116,000	405,385,152	△ 10,269,152
資金収入調整勘定	△ 453,418,000	△ 456,438,429	3,020,429
前年度繰越支払資金	1,582,388,207	1,582,388,207	0
収入の部合計	4,651,895,207	4,651,728,699	166,508
支出の部			
人件費支出	1,923,686,000	1,955,694,259	△ 32,008,259
教育研究経費支出	710,017,216	662,906,356	47,110,860
管理経費支出	169,719,784	149,458,159	20,261,625
借入金等利息支出	560,000	559,500	500
借入金等返済支出	27,000,000	27,000,000	0
施設関係支出	29,685,000	18,596,390	11,088,610
設備関係支出	53,488,000	116,925,350	△ 63,437,350
資産運用支出	307,007,000	307,825,471	△ 818,471
その他支出	717,802,000	742,344,841	△ 24,542,841
資金支出調整勘定	△ 287,184,000	△ 294,025,348	6,841,348
次年度繰越支払資金	1,000,114,207	964,443,721	35,670,486
支出の部合計	4,651,895,207	4,651,728,699	166,508



(2) 消費収支計算書 2012(平成24)年4月1日～2013(平成25)年3月31日まで (単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
収入の部			
学生生徒等納付金	2,010,932,000	2,072,150,233	△ 61,218,233
手数料	19,433,000	19,815,920	△ 382,920
寄附金	29,306,000	60,692,238	△ 31,386,238
補助金	441,861,000	442,318,959	△ 457,959
資産運用収入	7,043,000	2,035,281	5,007,719
資産売却差額	220,000	220,000	0
事業収入	95,898,000	127,307,730	△ 31,409,730
雑収入	168,176,000	166,420,514	1,755,486
帰属収入合計	2,772,869,000	2,890,960,875	△ 118,091,875
基本金組入額合計	△ 111,962,000	△ 279,293,621	167,331,621
消費収入の部合計	2,660,907,000	2,611,667,254	49,239,746
支出の部			
人件費	1,917,567,000	1,975,351,351	△ 57,784,351
教育研究経費	1,072,643,216	1,041,721,012	30,922,204
管理経費	193,072,784	171,552,771	21,520,013
借入金等利息	560,000	559,500	500
資産処分差額	0	472,732	△ 472,732
徴収不能額	26,145,000	28,738,262	△ 2,593,262
徴収不能引当金繰入額	0	9,247,637	△ 9,247,637
消費支出の部合計	3,209,988,000	3,227,643,265	△ 17,655,265



当年度消費支出超過額	549,081,000	615,976,011
前年度繰越消費支出超過額	8,988,832,524	8,988,832,524
翌年度繰越消費支出超過額	9,537,913,524	9,604,808,535

(3) 貸借対照表 平成25年3月31日 (単位:円)

資産の部				負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	16,357,353,556	16,595,296,707	△ 237,943,151	固定負債	1,077,102,267	1,057,789,875	19,312,392
有形固定資産	15,309,863,086	15,533,465,162	△ 223,602,076	長期借入金	319,000,000	346,000,000	△ 27,000,000
土地	6,579,213,600	6,579,213,600	0	その他の固定負債	758,102,267	711,789,875	46,312,392
建物	6,217,722,783	6,410,805,111	△ 193,082,328	流動負債	620,820,162	1,069,275,156	△ 448,454,994
その他の有形固定資産	2,512,926,703	2,543,446,451	△ 30,519,748	短期借入金	27,000,000	27,000,000	0
その他の固定資産	1,047,490,470	1,061,831,545	△ 14,341,075	その他の流動負債	593,820,162	1,042,275,156	△ 448,454,994
流動資産	1,143,476,026	1,671,357,867	△ 527,881,841	負債の部合計	1,697,922,429	2,127,065,031	△ 429,142,602
現金預金	964,443,721	1,582,388,207	△ 617,944,486	基本金の部			
その他の流動資産	179,032,305	88,969,660	90,062,645	第1号基本金	24,828,715,688	24,549,422,067	279,293,621
	17,500,829,582	18,266,654,574	△ 765,824,992	第3号基本金	200,000,000	200,000,000	0
				第4号基本金	379,000,000	379,000,000	0
				基本金の部合計	25,407,715,688	25,128,422,067	279,293,621
				消費収支差額の部			
				翌年度繰越消費支出超過額	9,604,808,535	8,988,832,524	615,976,011
				消費収支差額の部合計	△ 9,604,808,535	△ 8,988,832,524	△ 615,976,011
資産の部合計	17,500,829,582	18,266,654,574	△ 765,824,992	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	17,500,829,582	18,266,654,574	△ 765,824,992



2014年度 入試日程

相愛大学入試日程				
学部	種別	出願受付期間 (音楽・人文・人間発達共、消印有効・最終日は現金受付可)	試験日	合否発表
音楽	一般A入試	1月14日(火)～1月23日(木)	2月 1日(土)・2日(日)	2月 7日(金)
	音楽学科		2月 1日(土)	
	音楽マネジメント学科		2月 1日(土)	
	一般編入学後期試験		2月 1日(土)・2日(日)	
	音楽専攻科入試		2月 1日(土)	
	社会人特別入試 (音楽マネジメント学科のみ)	2月 1日(土)		
一般B入試	2月14日(金)～2月26日(水)	3月 4日(火)	3月 8日(土)	
一般C入試	3月10日(月)～3月20日(木)	3月25日(火)	3月26日(水)	
	[3月22日(土)]と[3月24日(月)の正午まで] 窓口にて受付			
人文・人間発達	一般A入試	1月14日(火)～1月24日(金)	2月 1日(土)	2月 6日(木)
	(本学会場)			
	(岡山会場)			
	社会人特別入試	1月27日(月)～2月 6日(木)	本学独自の試験は実施しない	2月14日(金)
	一般編入学後期試験			
	センター試験利用A入試			
	一般B入試	2月10日(月)～2月19日(水)	2月26日(水)	3月 1日(土)
	ファミリー後期入試(人間発達のみ)			
	センター試験利用B入試	3月 3日(月)～3月14日(金)	3月19日(水)	3月21日(金)
	一般C入試			
センター試験利用C入試				
寺院特別推薦C入試				
寺院特別推薦編入学後期試験(人文のみ)	3月19日(水)			

●お問い合わせ先 相愛大学 入試課
電話 06-6612-5905 F A X 06-6612-6090

相愛高等学校入試日程		
	1次入試	
普通科	受付	窓口受付
	出願期間	1月20日(月)～2月4日(火)
	試験日	2月10日(月)
音楽科	受付	窓口受付
	出願期間	1月20日(月)～2月4日(火)
	試験日	2月10日(月)、2月11日(火)

※受付時間 9:00～16:00(平日・土曜とも、日曜・祝日は休み)

相愛中学校入試日程			
	A日程	B日程	C日程
受付	窓口受付	窓口受付	窓口受付
出願期間	12月14日(土)～12月25日(水) 1月7日(火)～1月17日(金)	12月14日(土)～12月25日(水) 1月7日(火)～1月18日(土)	12月14日(土)～12月25日(水) 1月7日(火)～1月22日(水)
試験日	1月18日(土)	1月19日(日)	1月22日(水)

※受付時間 9:00～16:00(平日・土曜とも、日曜・祝日は休み)

●お問い合わせ先 高中入試広報部
電話 06-6262-0621 F A X 06-6262-0534

相愛学園 Event Guide

(2014年1月～3月)

ⓑ = 本町学舎
ⓓ = 南港学舎

- 成人の集い
1月11日(土)
ⓓホール、在学生対象
- 親鸞聖人御正忌法要/学園関係物故者追悼法要
1月16日(木) 本学関係者対象
- 古楽器・アンサンブル演奏会
1月21日(火)
ⓓホール
- 北御堂相愛コンサート
1月23日(木) 12:25～12:45
本願寺津村別院(北御堂)本堂 入場無料
- 相愛高等学校乙女コンサート
高校1年生の部
2月1日(土)
ⓑ講堂 入場無料
- 相愛大学音楽専攻科修了演奏会
2月15日(土)ザ・フェニックスホール
昼の部 14:00開演/夜の部 18:30開演
入場無料
- 北御堂相愛コンサート
2月20日(木) 12:25～12:45
本願寺津村別院(北御堂)本堂 入場無料

- 相愛高等学校音楽科卒業演奏会
2月22日(土)
ⓑ講堂
- 相愛大学音楽学部 第22回学内オペラ公演
『フィガロの結婚』
指揮: 船曳圭一郎
演出: 岩田達宗
2月23日(日) 13:00開演
ⓓホール 入場無料
- スプリングコンサート
2月23日(日)
ⓑ講堂
- 相愛高等学校卒業奉告参拝
2月26日(水)
浄土真宗本願寺派本願寺(西本願寺)
- 帰敬式
2月26日(水)
浄土真宗本願寺派本願寺(西本願寺)
- 相愛高等学校卒業式
2月28日(金) ⓑ講堂
- 相愛ウィンドオーケストラ
ポップスコンサート
3月2日(日) 14:00開演
ⓓホール 入場無料
- 相愛オーケストラ 第61回定期演奏会
3月7日(金) 18:30開演
いづみホール 入場料2,000円
- 相愛中学校卒業奉告参拝
3月14日(金)
本願寺津村別院(北御堂)
- 相愛ジュニアオーケストラ
第15回発表演奏会
3月15日(土)
ⓑ講堂
- 相愛中学校卒業式
3月15日(土)
ⓑ講堂
- 相愛大学卒業式
3月18日(火)
ⓓホール
- 相愛大学卒業演奏会
3月21日(金)
ⓓホール 入場無料
- 相愛大学卒業演奏会
3月24日(月)
いづみホール 入場無料
- 北御堂相愛コンサート
3月27日(木) 12:25～12:45
本願寺津村別院(北御堂)本堂 入場無料
- 相愛大学オープンキャンパス
3月29日(土)
ⓓキャンパス 事前申込不要